

科目コード	R6001	授業科目名	理学療法学概論					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣							
授業の概要	理学療法学を学ぶにあたり、基本的な態度と知識を身につける。理学療法の基本となる歴史、法的根拠、障害モデルなどを包括的に俯瞰し、4年間のカリキュラムにおける各科目の必要性を説く。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ○ ◎ △
到達目標	医療専門職になるために自ら学びを深める態度を養い、自ら意見や疑問を述べるができる。 理学療法士及び作業療法士法を理解し、倫理的に立ち振る舞う重要性を説明できる。 疾病により生じる障害を障害モデルに従って説明できる。 理学療法プロセスを理解し、疾患ごとの典型的な障害や理学療法を調べるができる。							
履修上の注意事項	C-learningを利用するので、スマートフォン等にインストールし、準備しておくこと。12~15回目は演習を行うので、自身のパソコンを使用できるよう準備しておくこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション ・教員自己紹介 ・学生自己紹介 ・大学での学び ・この講義を受講する際の留意事項					・事前学習:自己紹介の準備等(30分) ・事前学習:Webページ全体の閲覧(30分)	
	第2回	理学療法とは ・法的定義 ・歴史					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第3回	障害を取り巻く歴史 ・国連の取り組み ・ノーマライゼーション ・IL運動 ・日本の施策の変遷					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第4回	障害とは(1) ・国際障害分類と国際生活機能分類					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第5回	障害とは(2) ・ADL・QOL・バリアフリーとユニバーサルデザイン					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第6回	理学療法とリハビリテーション ・リハビリテーション ・理学療法の位置付け ・チーム医療					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第7回	理学療法を行うにあたり ・プロフェSSIONナリズム ・理学療法プロセス ・EBM ・診療ガイドライン					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第8回	理学療法の実践(1) ・理学療法の対象となる生活機能					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第9回	理学療法の実践(2) ・避けるべき3つの「用」					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第10回	理学療法の実践(3) ・手段としての理学療法の構成					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第11回	理学療法に関わる法律や制度 ・理学療法士及び作業療法士法 ・関連職種との法的関係					・事前学習:Webページ、リンク先の熟読(40分) ・事後学習:質問・疑問の整理(20分)	
	第12回	演習:疾患ごとの典型的な障害や理学療法の方法を調べる ・課題の説明 ・演習					・事後学習:演習課題の作成(60分)	
	第13回	演習:疾患ごとの典型的な障害や理学療法の方法を調べる ・演習					・事前事後学習:演習課題の作成(60分)	
	第14回	演習の発表(1) ・グループ内発表 ・相互評価					・事前学習:演習課題の作成(60分)	
第15回	演習の発表(2) ・相互評価による優秀課題の全体発表					・事前学習:相互評価(60分)		
成績評価方法	期末試験80%、演習課題20%とし、それぞれで6割以上を満たした場合に単位認定の対象とし、合算して評点する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	プリント、独自作成のWebページを使用							
参考書								
教員からのメッセージ	分からない言葉はその都度辞書などで調べること。							
教員との連絡方法	C-learningを利用してください。							
実務経験のある教員	急性期病院での診療(整形外科、脳神経外科、呼吸器科、循環器科等)。回復期リハビリテーション病院の開業準備、診療(脳卒中、多発外傷、神経難病、脊髄損傷、下肢切断等)、管理業務。専門理学療法士(神経、運動器、基礎、教育・管理)、公認心理師、呼吸療法認定士。							

科目コード	R6002	授業科目名	体表解剖学					
履修区分	必修	開講期	1年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	伊藤 祥史・中川 敬汰・谷岡 龍一							
授業の概要	人体に触れて、骨・関節・筋の位置関係を解剖学と比較、確認する。 理学療法における視診・触診の目的を捉えたうえで実施できる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける							△
※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力								
到達目標	1.理学療法における視診・触診の目的を説明できる。 2.触診の方法を習得し、不快感なく触ることができる。 3.骨のランドマーク・関節を触診できる。							
履修上の注意事項	触診ができるよう、テキストにある触診仕方と動画を利用して復習を必ずしてください。講義ごとに触診実技テストの課題が出ますので、各班で積極的にグループワークをしてください。学校指定ジャージ、ポロシャツ、ハーフパンツを着用してください。(※ただし届いていない場合は、動きやすいトレーニングウェアを持参してください。)教員3名のオムニバスで講義します。1教員の講義3分の1を超えて休むと期末試験の受験を認めない為、注意してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション:人体の構成・位置・方向用語、触診の基本(手順・触り方)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第2回	肩甲骨～上腕(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第3回	前腕～手指(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第4回	肩甲骨～上腕(筋)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第5回	前腕～手指(筋)、上肢のまとめ					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第6回	頭頸部～脊柱(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第7回	頭頸部～脊柱(筋)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第8回	骨盤～股関節(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第9回	骨盤～股関節(筋)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第10回	脊柱・骨盤のまとめ					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第11回	大腿～膝(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第12回	下腿～足部(骨)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第13回	大腿～膝(筋)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
	第14回	下腿～足部(筋)					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テスト、触診テストに向けて復習する。(60分)	
第15回	下肢のまとめ					講義で習ったことを必ず復習する。試験に向けて学習する。(60分)		
成績評価方法	講義試験40% 実技試験40%、小テスト10%、課題実技テスト10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 上肢							
	運動療法のための 機能解剖学的触診技術 下肢・体幹							
参考書	PT・OTのための運動学テキスト							
	(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 解剖学							
教員からのメッセージ	感染対策に留意しながら実習は積極的に参加し、意味を理解して実施しましょう。講義で理解できないことは、すぐ担当教員に質問し、復習すること。理学療法士にとっても重要な学問です。授業後の復習をおこたらず、しっかり理解してください。次回の講義前にかかわらず小テストを実施します。ヒューマン・アナトミー・アトラスなど解剖系のアプリ等々を利用して授業を行うとともに習熟度が深まりますのでお勧めします。							
教員との連絡方法	オフィスアワーやチャタリングを利用してください。							
実務経験のある教員	実際臨床で理学療法士として働いていた教員で構成されます。その経験を生かして実際の体の仕組みや触り方を指導します。							

科目コード	R6003	授業科目名	理学療法支援工学					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高							
授業の概要	近年では、ユニバーサルデザインなど障がい有する方々が過ごしやすい住環境または使いやすい道具が数多く創りだされている。それらは、障がい有する方々のみならず多くの人々の生活に取り入れられ生活を豊かにしている。まさに理学療法士は、そのような新しい技術を創造する種を多くの患者と接する中で見出すことができる。本講義を通して、工学を身近に感じて、理学療法士は新しい技術の種を創造することができる職種であることを学ぶ。また、本講義では症例を通して問題解決型(PBL)の演習も実施する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ △ ○
到達目標	①ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、実例を用いて説明できる。 ②車いすの仕組みを理解し、その内容を説明できる。 車椅子の調整する経験をする。 ③理学療法分野と工学の連携(医工連携)の現状を理解し、その内容を説明できる。							
履修上の注意事項	8回講義ですので、特に欠席しないよう体調を管理してください。 講義を欠席した場合、課題レポートが作成できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 出席確認はC-learningで行います。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション 義肢装具、日常生活用具の支給制度について					講義内容に関するレポート作成(2時間)	
	第2回	身の回りのユニバーサルデザイン① ユニバーサルデザインの探索					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第3回	身の回りのユニバーサルデザイン② 第2回で着目したUDについての発表					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第4回	福祉用具の仕組み① 車いすの仕組み					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第5回	福祉用具の仕組み② 車いすの調整					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第6回	福祉用具の仕組み③ 駆動性の良い車いすの探求					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第7回	福祉用具の仕組み④ 乗り心地の良い車いすの探求					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成・PBL課題(2.5時間)	
	第8回	理学療法分野と工学の連携(医工連携)の実際					C-learningに掲載される講義資料を用いた事前学習(1.5時間) レポート作成(1.5時間)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	レポートおよび講義内での発表または成果物を40%、期末試験を60%として評価する。 期末試験は、再試験までとする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書								
教員からのメッセージ	生活の中に溶け込んでいるユニバーサルデザインを探してみましよう。見つけたら、特にどのような人に対して「優しい」デザインなのか考えてみてください。							
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス:uma@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	車椅子などの補装具や日常生活用具の支給および住宅改修の経験および医療機器開発の経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R6004	授業科目名	臨床運動学					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・谷岡 龍一							
授業の概要	運動学や運動学実習で習得した正常な身体運動の基礎知識を基に動作分析や歩行分析ができるように、講義を通して理解を深めていく。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	運動学や運動学実習で習得した正常な身体運動の基礎知識を基に様々な疾患や外傷によって生じる身体機能障害と異常運動の関連性を理解する。理学療法評価として重要な位置を占める動作分析について目的や方法、疾患別異常動作の特徴を理解し、いかに治療に結び付けていくかを習得する。							
履修上の注意事項	レポートを実施します。期日や提出忘れなどないようにお願いします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	序論・姿勢制御のバイオメカニクス(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第2回	【1】寝返りの動作分析(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第3回	【2】寝返りの動作分析・症例検討(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:レポート作成	
	第4回	【3】寝返りの動作分析・発表(谷岡)					事前:発表準備・事後:レポート提出①	
	第5回	【1】起き上がりの動作分析(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第6回	【2】起き上がりの動作分析・症例検討(谷岡)					事前:教科書の復習・事後:レポート作成	
	第7回	【3】起き上がりの動作分析・発表(谷岡)					事前:発表準備・事後:レポート提出②	
	第8回	【1】起立・着座の動作分析(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第9回	【2】起立・着座の動作分析・症例検討(谷岡)					事前:教科書の復習・事後:レポート作成	
	第10回	【3】起立・着座の動作分析・発表(谷岡)					事前:発表準備・事後:レポート提出③	
	第11回	【1】歩行の分析(谷岡)					事前:教科書の予習・事後:授業の復習	
	第12回	【2】歩行の分析・症例検討(甲田)					事前:教科書の復習・事後:レポート作成	
	第13回	【3】歩行の分析・発表(甲田)					事前:発表準備・事後:レポート提出④	
	第14回	【4】歩行の分析・症例検討(谷岡)					事前:教科書の復習・事後:レポート作成	
第15回	【5】歩行の分析・発表(谷岡)					事前:発表準備・事後:レポート提出⑤		
成績評価方法	レポート課題100% レポート内容:「寝返り・起き上がり・起立・着座・歩行の分析を実際の症例を活用しレポートを作成する ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	動作分析 臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 石井慎一郎(medical view)						978-4-7583-1474-9	
参考書	基礎運動学 中村隆一ほか(医歯薬出版)						978-4-263-21153-3	
教員からのメッセージ	動作・歩行分析は患者さんの動作障害の原因を分析するもので、非常に重要になってきます。この講義にてしっかりと分析力を養って実際の現場で活躍できるよう頑張ってください。							
教員との連絡方法	甲田(研究棟:209);kota@hcu.ac.jp, 谷岡(研究棟:202); tanioka@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	甲田:急性期病院での診療経験(整形外科、脳神経外科、呼吸器科、循環器科等)。回復期リハビリテーション病院の診療経験(脳卒中、多発外傷、神経難病、脊髄損傷、下肢切断等)。谷岡:回復期の診療経験(脳卒中、整形外科、呼吸器科等)、維持期の診療経験(廃用症候群等)、訪問リハビリの診療経験(特定疾患、慢性疾患等)をふまえ、知見を交えた講義を行います。							

科目コード	R6005	授業科目名	問題解決型実践演習 I					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	問題解決型学習(PBL)により、理学療法の対象となる主な症例のケーススタディを行う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ○ ◎ △
到達目標	・症例紹介から大まかな病態をとらえることができる。 ・症例の基本的な情報、動作観察から障害を予想し必要な検査項目を選択できる。 ・検査データから症例の問題を推論できる。症例の障害構造を理解できる。							
履修上の注意事項	チューターごとにゼミ形式で行うので、欠席しないように注意する。							
授業計画	回数	講義内容				事前・事後学修		
	第1回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第2回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第3回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第4回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第5回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第6回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第7回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第8回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
成績評価方法	発表内容 50%、課題50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	開講開始時期については、チューターの指示に従ってください。 臨床評価実習が終了後に実施する。							
教員との連絡方法	チューターに連絡をとること。							
実務経験のある教員	本科目は、臨床経験のある教員を中心とした課題解決型教育から構成される科目です。							

科目コード	R6006	授業科目名	問題解決型実践演習Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	4年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	・理学療法士が必要とする対象者の問題を解決するという「問題解決能力の育成」に主眼を置き、総合臨床実習にて経験した症例または実習で経験した内容についてプレゼンテーションを行う。 ・そのプレゼンテーション内容について、討議し症例や障がい像の理解を深める。「臨床総合実習Ⅰ」後および「臨床総合実習Ⅱ」後に指導を行う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ○ ◎ △
到達目標	・症例の基本的な情報、動作観察から障害を予想し必要な検査項目を選択できる。 ・検査データから症例の問題を推論できる。 ・症例の障害構造を理解できる。 ・問題点に対して治療項目を選択できる。							
履修上の注意事項	チューターごとにゼミ形式で行うので、欠席しないように注意する。							
授業計画	回数	講義内容				事前・事後学修		
	第1回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第2回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第3回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第4回	チューターごとのゼミ形式で症例検討				担当症例に関する文献調べ(120分) 担当症例の情報から、必要な検査項目を調べておく(60分) 担当症例の臨床推論をまとめ、発表準備を行う(120分) ディスカッションで得られた課題・修正点を考える(60分)		
	第5回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第6回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第7回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
	第8回	症例発表会				他学生の発表の聴講(120分)		
成績評価方法	発表内容 50%、課題50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書								
教員からのメッセージ	開講開始時期については、チューターの指示に従ってください。 第1回～4回は、総合実習Ⅰが終了後に実施し、第5回～8回は総合実習Ⅱが終わり次第実施する。							
教員との連絡方法	チューターに連絡をとること。							
実務経験のある教員	本科目は、臨床経験のある教員を中心とした課題解決型教育から構成される科目です。							

科目コード	R6007	授業科目名	理学療法管理学					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	藤村 昌彦							
授業の概要	理学療法士の職場は、組織の規模や形態が異なるものの、どの職場においても質の高い理学療法の提供が求められる。理学療法の質とは、リスク管理・治療効果、そして対象者満足度のアウトカムを達成することを意味する。理学療法の質を担保するには、組織力・スタッフ・職場環境などそれぞれの質を向上させるマネジメントが求められる。本講義は、理学療法の質を向上させるために必要なマネジメントを学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	理学療法の現状の把握と、臨床管理・運営の基礎を説明できる。 危機管理(リスクマネジメント)について理解し判断できる。 個人情報保護、守秘義務など理学療法士に求められる知識を理解する。 理学療法業務を適切にマネジメントして対象者の期待に添える理学療法士を目指す。							
履修上の注意事項	講義回数が8回なので欠席しないように努めてください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	管理・マネジメントの概観—理学療法士の視座から—					マネジメントの意味について調べる(30分)	
	第2回	理学療法管理学とは					理学療法管理学の必要性について調べる(30分)	
	第3回	組織運営とマネジメント					理学療法士が属する組織について調べる(30分)	
	第4回	理学療法士の職場管理					職場管理について調べる(30分)	
	第5回	理学療法業務のマネジメント					理学療法士業務について調べる(30分)	
	第6回	教育・研究のマネジメント					教育や研究の現状について調べる(30分)	
	第7回	疾患別・病期別の理学療法マネジメント					疾患別・病期別の理学療法について調べる(30分)	
	第8回	理学療法管理学の総括					これからの理学療法管理について考える(30分)	
	第9回	【8回講義のため以下余白】						
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	成績評価は期末試験(100%)で判定する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	理学療法管理学、編著者代表:奈良勲(医歯薬出版株式会社)					978-4-263-26583-3		
参考書								
教員からのメッセージ	授業へ積極的に参加してください。わからないことがあれば、随時遠慮なく聞いてください。知識をたくさん持ち帰り、疑問はその場で解決して持ち帰らないようにしましょう。鉄は熱いうちに打ちましょう。							
教員との連絡方法	211教員室(masafuji@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員								

科目コード	R6008	授業科目名	理学療法倫理学					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美・谷岡 龍一							
授業の概要	自己を律し自らの責任で理学療法士として国民保健に寄与するために、医における倫理①自律尊重原則②善行原則③無危害原則④正義原則および法、モラルについて理解し、診療・研究・教育場面で医療に携わる専門職の一員として身に付けるべき価値観、倫理、学術技能の研鑽について学修します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身に付ける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身に付ける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身に付ける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身に付ける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ○ ◎ ○
到達目標	職業倫理としての医療倫理や理学療法倫理について説明できる。医療提供者としての医療倫理及び患者の権利を説明できる。研究者としての研究倫理の概要を説明できる。							
履修上の注意事項	配布資料は再配布しません。講義のために必要な物品(配布資料・ほか)を忘れず用意してください。講義中の私語、携帯電話を禁止します。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	権利、説明と同意(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるICまとめ60分	
	第2回	理学療法士の職業倫理(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による職業倫理まとめ60分	
	第3回	研究における倫理(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による研究倫理まとめ60分	
	第4回	法規、モラル、マナー(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による法規まとめ60分	
	第5回	人権、医における倫理(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による医の倫理4原則まとめ60分	
	第6回	医に関する倫理の変遷(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による医療倫理の歴史まとめ60分	
	第7回	生死の倫理(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるACPまとめ60分	
	第8回	事例検討、まとめ(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるまとめ60分	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	リハビリテーション管理学・斉藤秀之ほか(医学書院)					978-4-260-04312-0		
参考書	理学療法学概論第7版・奈良勲編(医歯薬出版)					ISBN978-4-263-26586-4		
	理学療法管理学・奈良勲編(医歯薬出版)					ISBN978-4-263-26583-3		
教員からのメッセージ	配布資料についてわからない事は参考書で調べ質問してください。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp, 谷岡龍一:202教員室 tanioka@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美:急性期、老人保健施設の理学療法、在宅介護支援 谷岡龍一:回復期(脳卒中、整形外科、呼吸器科等)、生活期(廃用症候群等)、訪問リハビリ(特定疾患、慢性疾患等)の診療経験と知見を教育にいかします。							

科目コード	R6009	授業科目名	基礎理学療法評価学					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣							
授業の概要	理学療法における評価の位置付け、検査・測定・評価の概要、各種情報の活用など理学療法評価学の基礎を学び、理学療法治療との関連について学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △
到達目標	理学療法プロセスにおける評価の位置付けを説明できる。 問診により患者から情報を取得できる。 具体的な医療情報を与えられれば、理学療法を行う際に留意すべきことを調べることができる。							
履修上の注意事項	C-learningを利用するので、スマートフォン等にインストールし、準備しておくこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	理学療法における評価の位置づけ					Webページ事前学習(60分)、ICFの復習(60分)、疾患と障害の関連を調べる(60分)	
	第2回	医療情報の収集と活用					Webページ事前学習(60分)、介護保険の理解(60分)、授業中に提示した論文2本抄読(60分)	
	第3回	全体像の評価					Webページ事前学習(60分)、インフォームドコンセントを調べる(60分)、面接技法の練習(60分)	
	第4回	生活機能(障害)に応じた評価					Webページ事前学習(60分)、検査・測定の尺度を考察する(60分)	
	第5回	臨床検査所見、画像初見の活用					Webページ事前学習(60分)、主な臨床検査初見の内容確認(60分)、画像の基本の項抄読(60分)	
	第6回	評価を理学療法に活かす					Webページ事前学習(60分)、理学療法プロセスの復習(60分)、検査・測定とICFの関係(60分)	
	第7回	診療録=カルテの記録					Webページ事前学習(60分)、模擬症例のカルテ記載(60分)	
	第8回	まとめ					総復習(60分)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	理学療法評価学 改訂第6版・松澤正、江口勝彦(金原出版)					978-4-307-75054-7		
参考書	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた・水間正澄、川手信行(南江堂)					978-4-524-25907-6		
教員からのメッセージ	疑問や分からないことがあれば、質問フォームを使って積極的に聞いてください。							
教員との連絡方法	C-learningを利用してください。							
実務経験のある教員	急性期病院での診療(整形外科、脳神経外科、呼吸器科、循環器科等)。回復期リハビリテーション病院の開設準備、診療(脳卒中、多発外傷、神経難病、脊髄損傷、下肢切断等)、管理業務。専門理学療法士(神経、運動器、基礎、教育・管理)、公認心理師、呼吸療法認定士。							

科目コード	R6010	授業科目名	基礎理学療法評価学演習							
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位		
担当者	石倉 英樹・中川 敬汰									
授業の概要	理学療法における測定から評価、治療の流れについて理解し、理学療法の対象となる障害を客観的に評価する基本事項を習得する。おもにバイタル測定・形態測定・関節可動域測定を中心として実施する。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力						—	◎	△	△
到達目標	1. 理学療法における、測定・評価・治療の関連について述べるができる。 2. 検査測定を実施して、得られる内容について説明することができる。 3. 形態測定や関節可動域測定を安全に、そして正確に評価が実施できる。									
履修上の注意事項	実習に適した服装(短パン、ポロシャツ)と実技セット(メジャー、角度計など)、蛍光ペンを準備すること。 また小テストを実施する。復習を怠らない様に履修すること。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	オリエンテーション、バイタルサインの基礎 ・バイタルサインに関する基礎知識					バイタルサインの評価を行う意義・目的を考えておく。(60分)			
	第2回	バイタルサインの評価① ・意識状態、心拍-脈拍、呼吸の評価					意識状態、心拍-脈拍、呼吸の評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第3回	バイタルサインの評価② ・血圧、体温、経皮的酸素飽和度の評価					血圧、体温、経皮的酸素飽和度の評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第4回	形態測定の基礎 ・形態測定に関する基礎知識					形態測定の評価を行う意義・目的を考えておく。(60分)			
	第5回	形態測定の評価① ・身長、体重の測定、栄養状態と体格指数					身長、体重、栄養状態、体格指数の評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第6回	形態測定の評価② ・四肢長および関節長の測定(上肢)					上肢の肢長周径の評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第7回	形態測定の評価③ ・四肢長および関節長の測定(下肢)					下肢の肢長周径の評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第8回	バイタルサイン・形態測定のまとめ ・バイタルサイン、形態測定に関する実技の習熟					臨床場面を想定し、バイタルサイン、形態測定を一連の流れとして、評価する方法をまとめる。(60分)			
	第9回	関節可動域測定の基礎 ・関節可動域測定に関する基礎知識					関節可動域測定を行う意義・目的を考えておく。(60分)			
	第10回	関節可動域測定の評価① ・関節可動域測定(肩甲帯～肩関節)の評価					肩甲帯～肩関節の可動域評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第11回	関節可動域測定の評価② ・関節可動域測定(肘関節～手関節)の評価					肘関節～手関節の可動域評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第12回	関節可動域測定の評価③ ・関節可動域測定(股関節)の評価					股関節の可動域評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第13回	関節可動域測定の評価④ ・関節可動域測定(膝関節～足部)の評価					膝関節～足部の可動域評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
	第14回	関節可動域測定の評価⑤ ・関節可動域測定(体幹、手指、足指、その他)の評価					体幹、手指、足指などの可動域評価について、臨床場面で行うイメージをしておく。(60分)			
第15回	関節可動域測定のまとめ ・関節可動域測定に関する実技の習熟					臨床場面を想定し、関節可動域測定を一連の流れとして評価する方法をまとめる。(60分)				
成績評価方法	筆記試験45%、実技試験45%、小テスト10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード			
	理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)						978-4-307-75068-4			
参考書	標準理学療法 理学療法評価学 第3版(医学書院)						978-4-260-03639-9			
	動画で学ぶ関節可動域測定法ROMナビ増補改訂第3版(ラウンドフラット)						978-4904613696			
教員からのメッセージ	評価は、解剖学、生理学などや身体の構造についての知識が不可欠であり、特に身体触診についてはよく復習しておくことと良い。									
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること									
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、理学療法評価(バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定)について講義及び実習を行う。									

科目コード	R6011	授業科目名	理学療法評価学 I					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	石倉 英樹							
授業の概要	理学療法評価の目的や方法を学習する。特に理学療法評価学 I では、徒手筋力検査法について学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △
到達目標	筋力測定の方法を説明することができる。 代償動作を理解し、その状態に応じた筋力検査の項目を述べることができる。 理学療法評価結果より統合と解釈を体験する。							
履修上の注意事項	小テストを実施する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション、理学療法評価の基礎 ・筋力測定に関する基礎知識					理学療法評価における心身機能・身体構造について復習しておく。(60分)	
	第2回	徒手筋力検査法(頸部～体幹)① ・頸部の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					頸部の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第3回	徒手筋力検査法(頸部～体幹)② ・体幹の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					体幹の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第4回	徒手筋力検査法(上肢)① ・肩甲帯の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					肩甲帯の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第5回	徒手筋力検査法(上肢)② ・肩関節の筋力検査に関する方法、代償動作の理解(前半)					肩関節の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第6回	徒手筋力検査法(上肢)③ ・肩関節の筋力検査に関する方法、代償動作の理解(後半)					肩関節の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第7回	徒手筋力検査法(上肢)④ ・肘関節-前腕の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					肘関節-前腕の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第8回	徒手筋力検査法(上肢)⑤ ・手関節-手指の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					手関節-手指の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第9回	徒手筋力検査法:頸部～上肢まとめ ・頸部～上肢の筋力検査に関する知識のまとめ					頸部～上肢の徒手筋力検査手法を整理し、代償動作や留意点をまとめておく。(60分)	
	第10回	徒手筋力検査法(下肢)① ・股関節の筋力検査に関する方法、代償動作の理解(前半)					股関節の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第11回	徒手筋力検査法(下肢)② ・股関節の筋力検査に関する方法、代償動作の理解(後半)					股関節の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第12回	徒手筋力検査法(下肢)③ ・膝関節の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					膝関節-前腕の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第13回	徒手筋力検査法(下肢)④ ・足関節-足趾の筋力検査に関する方法、代償動作の理解					足関節-足部の筋について、起始・停止・支配神経・作用を復習しておく。(60分)	
	第14回	徒手筋力検査法:下肢まとめ ・下肢の筋力検査に関する知識のまとめ					下肢の徒手筋力検査手法を整理し、代償動作や留意点をまとめておく。(60分)	
第15回	筋力測定に関する応用的知識 ・疾患に関する筋力評価、統合と解釈について					臨床場面で行う徒手筋力検査についてイメージしておく。(60分)		
成績評価方法	筆記試験90%、小テスト10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	新・徒手筋力検査法 原著第10版(共同医書出版)					978-4-7639-0041-8		
参考書	理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)					978-4-307-75068-4		
教員からのメッセージ	筋力評価は、身体の構造についての知識が不可欠であり、特に解剖学(骨格筋と支配神経)についてはよく復習しておくこと良い。							
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること							
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、理学療法評価(筋力評価)について講義を行う。							

科目コード	R6012	授業科目名	理学療法評価学演習 I							
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位		
担当者	石倉 英樹・中川 敬汰・猪村 剛史									
授業の概要	理学療法評価について、徒手筋力検査法の実技・手法を中心に学習する。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力						—	◎	△	△
到達目標	筋力測定の目的や実施方法を、説明し、実施ができる。 代償動作を理解し、配慮して筋力測定をすることができる。 筋力評価を行った結果より統合と解釈を体験する。									
履修上の注意事項	実習に適した服装(ケーシー、ジャージ、短パン、ポロシャツなど)で参加すること。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	オリエンテーション、理学療法評価の基礎 ・筋力測定に関する基礎知識、評価の事前に行う情報収集					理学療法評価における心身機能-身体構造について復習しておく。(60分)			
	第2回	徒手筋力検査法(頸部～体幹)① ・頸部の筋力検査に関する方法の実技					頸部の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第3回	徒手筋力検査法(頸部～体幹)② ・体幹の筋力検査に関する方法の実技					体幹の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第4回	徒手筋力検査法(上肢)① ・肩甲帯の筋力検査に関する方法の実技					肩甲帯の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第5回	徒手筋力検査法(上肢)② ・肩関節の筋力検査に関する方法の実技(前半)					肩関節周囲の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第6回	徒手筋力検査法(上肢)③ ・肩関節の筋力検査に関する方法の実技(後半)					肩関節周囲の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第7回	徒手筋力検査法(上肢)④ ・肘関節-前腕の筋力検査に関する方法の実技					肘関節-前腕の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第8回	徒手筋力検査法(上肢)⑤ ・手関節-手指の筋力検査に関する方法の実技					手関節-手指の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第9回	徒手筋力検査法:頸部～上肢まとめ ・頸部～上肢の筋力検査に関する実技の習熟					頸部～上肢の徒手筋力検査手法の口頭指示や運動について整理し、練習しておく。(60分)			
	第10回	徒手筋力検査法(下肢)① ・股関節の筋力検査に関する方法の実技(前半)					股関節の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第11回	徒手筋力検査法(下肢)② ・股関節の筋力検査に関する方法の実技(後半)					股関節の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第12回	徒手筋力検査法(下肢)③ ・膝関節の筋力検査に関する方法の実技					膝関節の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第13回	徒手筋力検査法(下肢)④ ・足関節-足趾の筋力検査に関する方法の実技					足関節-足部の骨・筋について、触診を練習しておく。(60分)			
	第14回	徒手筋力検査法:下肢まとめ ・下肢の筋力検査に関する実技の習熟					下肢の徒手筋力検査手法の口頭指示や運動について整理し、練習しておく。(60分)			
第15回	筋力測定に関する応用的知識 ・疾患に関する筋力評価、統合と解釈の実践					臨床場面で行う徒手筋力検査についてイメージしておく。(60分)				
成績評価方法	実技試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	新・徒手筋力検査法 原著第10版(共同医書出版)					978-4-7639-0041-8				
参考書	理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)					978-4-307-75068-4				
教員からのメッセージ	筋力評価は、身体の構造についての知識が不可欠であり、特に解剖学(骨格筋と支配神経)についてはよく復習しておくが良い。 また、実技に際して触診技術も必要となるため、復習しておくが良い。									
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること									
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、理学療法評価(筋力評価)について、実技を行う。									

科目コード	R6013	授業科目名	理学療法評価学Ⅱ						
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位	
担当者	江越 正次朗								
授業の概要	理学療法評価の目的や方法を学習し、評価結果について統合と解釈を加える。								
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ —	
到達目標	目的に応じた理学療法評価の項目を述べるができる。 理学療法評価の実施法について述べるができる。 評価結果に基づいて、統合と解釈を記載することができる。								
履修上の注意事項	小テストおよびレポート課題があります。 携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影は厳禁とします。								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修		
	第1回	概論、リスク管理					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第2回	深部反射・病的反射					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第3回	筋緊張検査・片麻痺検査					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第4回	表在・深部感覚検査					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第5回	協調性・バランス検査					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第6回	運動発達評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第7回	痛みの評価・意識障害尺度・高次脳機能検査					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第8回	前半のまとめ					前半内容の復習(60分)		
	第9回	整形外科的評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第10回	姿勢分析					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第11回	動作分析					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第12回	呼吸・循環器の評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第13回	ADL評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
	第14回	統合と解釈					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
第15回	統合と解釈からの理学療法プログラム立案					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)			
成績評価方法	期末試験80%、中間テストおよびレポート20%とする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード			
	理学療法評価学改訂第6版・松澤 正(金原出版株式会社)					978-4-307-75054-7			
参考書	リハビリテーション基礎評価学・潮見 泰蔵 他(羊土社)					978-7581-0793-8			
	骨格筋系のキネシオロジー 第2版・Donald A. Neumann(医歯薬出版株式会社)					978-4-263-21395-7 C3047			
	ベッドサイドの神経の診かた・田崎 義昭(南山堂)					978-4-525-24798-0			
教員からのメッセージ	何を明らかにするための評価なのかを解剖学的、生理学的、運動学的な知識を裏付けに考える癖をつけてください。								
教員との連絡方法	研究室(研究棟201号室)へお越しください。								
実務経験のある教員	病院で理学療法に従事した経験のある教員が、理学療法評価について講義を行う。								

科目コード	R6014	授業科目名	理学療法評価学演習Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	江越 正次朗・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	理学療法評価学Ⅱで学修した内容について、実技演習を実施する。 評価結果についてSOAPを用いて記載することができる。 評価結果に基づいて、統合と解釈を記載することができる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ —
到達目標	理学療法評価の目的や実施法について説明することができる。 理学療法評価を学生間で正確に評価することができる							
履修上の注意事項	レポート課題があります。 携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影は厳禁とします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	リスク管理演習(バイタル測定)					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第2回	深部反射・病的反射検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第3回	筋緊張検査・片麻痺検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第4回	表在・深部感覚検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第5回	協調性・バランス検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第6回	運動発達評価演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第7回	症例検討PBL①(中枢神経疾患)					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第8回	実技まとめ①(片麻痺患者を想定した評価)					前半内容の復習(60分)	
	第9回	整形外科的評価演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第10回	姿勢分析演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第11回	動作分析演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第12回	呼吸機能検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第13回	循環器検査演習					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第14回	症例検討PBL②(運動器疾患)					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
第15回	実技まとめ②(運動器疾患を想定した評価)					後半内容の復習(60分)		
成績評価方法	期末試験(実技)90%、レポート10%とする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	理学療法評価学改訂第6版・松澤 正(金原出版株式会社)					978-4-307-75054-7		
参考書	リハビリテーション基礎評価学・潮見 泰蔵 他(羊土社)					978-7581-0793-8		
	骨格筋系のキネシオロジー 第2版・Donald A. Neumann(医歯薬出版株式会社)					978-4-263-21395-7 C3047		
	ベッドサイドの神経の診かた・田崎 義昭(南山堂)					978-4-525-24798-0		
教員からのメッセージ	何を明らかにするための評価なのかを解剖学的、生理学的、運動学的な知識を裏付けに考える癖をつけてください。							
教員との連絡方法	研究室(研究棟201号室・212号室)へお越しください。							
実務経験のある教員	病院で理学療法に従事した経験のある教員が、理学療法評価について講義を行う。							

科目コード	R6015	授業科目名	基礎運動療法学					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	伊藤 祥史							
授業の概要	運動療法を適切に行うために必要な基礎知識を習得することを目的とする。運動療法は、いろいろな疾患によって障害を受けた身体機能を回復させるために、運動を科学的に用いる治療科学のひとつで医学的リハビリテーションの代表的な治療法として進歩してきたものである。まずは運動療法に関する定義、歴史、対象、理論等々について学ぶ。さらに各種運動療法(関節可動域練習、筋力増強、筋持久力練習、協調性の改善練習、バランス、基本動作等々)の理論を学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ △
到達目標	1. 運動療法における理論、種類、効果が理解できる。 2. 基本的な運動療法が理解できる。							
履修上の注意事項	講義で行った内容は、必ず小テストがあるので復習を怠らないこと。教員が指摘したチェックポイントを確認し、口に出して言えるようにすること。教科書を準備し、チェックポイントや大事なキーワードは、線を引いたり、付箋を貼ったり、ノートにまとめるなどしてください。講義のスライドは、Cラーニングにアップしますので活用してください。課題提出がなされないことと試験を受けることができません。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	運動療法の概念					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第2回	運動療法とは何か?					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第3回	関節の構造と運動					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第4回	関節の運動様式					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第5回	筋の構造と収縮					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第6回	筋と筋収縮1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第7回	筋と筋収縮2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第8回	運動を制御する神経経路					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第9回	組織の病態生理と修復 運動器系					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第10回	組織の病態生理と修復 神経系					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第11回	運動の種類					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第12回	基本的な運動療法 関節可動域訓練					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第13回	基本的な運動療法 筋力増強運動					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第14回	基本的な運動療法 持久力増強運動					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
第15回	基本的な運動療法 協調性運動					講義で習ったことを必ず復習する。(60分)		
成績評価方法	中間試験・期末試験80%、小テスト・レポート20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	運動療法学 総論					978-4-260-02786-1		
参考書	理学療法テキスト 運動療法学					978-4-7583-2005-4		
	運動療法学					978-4-8306-4342-2		
教員からのメッセージ	運動療法学は、解剖学、生理学などや身体の構造についての知識が不可欠となります。講義に必要な知識は整理してください。また習ったところは、次回の講義前にかかわらず小テストを実施します。復習を怠らない様に履修してください。							
教員との連絡方法	cラーニングやメール、オフィスパワーを利用してください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R6016	授業科目名	物理療法学						
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位	
担当者	石倉 英樹								
授業の概要	物理療法について学び、臨床場面で物理療法を使用するために必要な知識を理解する。								
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △	
到達目標	物理療法の位置づけと意義を理解する。 各物理療法の生理学的作用を理解する。 各物理療法の適応・禁忌を理解する。								
履修上の注意事項	物理療法学演習との関連して講義が進行する。								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修		
	第1回	オリエンテーション、物理療法学概論 ・理学療法における物理療法の位置づけ					理学療法プロセスをイメージし、その中での物理療法の位置づけを具体的にしておく。(60分)		
	第2回	温熱療法 ・温熱エネルギーの概要					日常生活における温熱エネルギーの具体的例をイメージしておく。(60分)		
	第3回	温熱療法 ・ホットパック、パラフィンの各論					ホットパック、パラフィンが臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第4回	寒冷療法 ・寒冷療法の概要					日常生活における寒冷エネルギーの具体的例をイメージしておく。(60分)		
	第5回	寒冷療法 ・コールドパック、アイスバッグ、コールドスプレー、クリッカーの各論					コールドパック、アイスバッグ、コールドスプレー、クリッカーが臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第6回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電磁エネルギーの概要、エネルギー変換熱(マイクロ波、超短波)の各論					日常生活における電磁エネルギーの具体的例をイメージしておく。マイクロ波・超短波が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第7回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・光線療法(赤外線、レーザー、紫外線)の各論					赤外線、レーザー、紫外線療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第8回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電気刺激療法(TENS、NMES)の各論					電気刺激療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第9回	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・力学的エネルギーの概要					日常生活における力学的エネルギーの具体的例をイメージしておく。(60分)		
	第10回	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・超音波、振動刺激、圧迫、牽引の各論					超音波、振動刺激、圧迫、牽引療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第11回	水治療法 ・水治療法の概要、温浴、冷浴、水中運動療法などの各論					水治のエネルギーの具体的例をイメージしておく。水治療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	第12回	温熱療法・寒冷療法の臨床 ・温熱療法、寒冷療法の生理学的効果					温熱・寒冷療法が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
	第13回	電磁エネルギーを用いた物理療法の臨床 ・電磁エネルギーを用いた物理療法の生理学的効果					電磁エネルギーが生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
	第14回	力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法の臨床 ・力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法の生理学的効果					力学的エネルギー、水治療法が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
第15回	総括 ・各物理療法のまとめ					今までの講義をまとめ、復習しておく。(60分)			
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード			
	物理療法学テキスト 改訂第3版(南江堂)					978-4-524-25179-7			
参考書	Crosslink 理学療法テキスト 物理療法学(メジカルビュー社)					978-4-758320061			
	エビデンスから身につける物理療法(羊土社)					978-4-758102216			
教員からのメッセージ	物理療法による生理学的効果を理解するために、生理学や解剖学の知識が重要となる。生理学・解剖学で学ぶ知識と併せて理解するようにすると良い。								
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること								
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、物理療法について講義を行う。								

科目コード	R6017	授業科目名	物理療法学演習					
履修区分	必修	開講期	1年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	石倉 英樹・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	物理療法機器について、具体的な使用方法や生体に対する反応を理解する。また、機器の使用について体験し、理解を深める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △
到達目標	各物理療法機器が生体に与える影響を理解する。 物理療法の適応・リスクを理解し、適切な機器使用ができるようになる。 臨床場面における物理療法機器の使用を考慮できるようになる。							
履修上の注意事項	物理療法学との関連して講義が進行する。 実技に適した服装で受講すること。 毎回の演習レポートをまとめる。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション、物理療法学概論 ・物理療法の適応症状、疾患					物理療法の適応症状を具体的にイメージしておく。(60分)	
	第2回	温熱療法 ・温熱療法の効果					温熱療法の効果を整理する。(60分)	
	第3回	温熱療法 ・ホットパック、パラフィンを用いた治療方法					温熱療法機器の使用手順についてイメージしておく。(60分)	
	第4回	寒冷療法 ・寒冷療法の効果					寒冷療法の効果を整理する。(60分)	
	第5回	寒冷療法 ・コールドパック、アイスバッグ、コールドスプレー、クリッカーを用いた治療方法					寒冷療法機器の使用手順についてイメージしておく。(60分)	
	第6回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電磁エネルギーの効果、エネルギー変換熱(マイクロ波、超短波)を用いた治療方法					電磁エネルギーの効果を整理する。エネルギー変換熱を用いた機器の使用手順をイメージしておく。(60分)	
	第7回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・光線療法(赤外線、レーザー、紫外線)を用いた治療方法					光線療法機器の使用手順についてイメージしておく。(60分)	
	第8回	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電気刺激療法(TENS、NMES)を用いた治療方法					電気刺激療法機器の使用手順についてイメージしておく。(60分)	
	第9回	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・力学的エネルギーの効果					力学的エネルギーを用いた物理療法の効果を整理する。(60分)	
	第10回	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・超音波、振動刺激、圧迫、牽引を用いた治療方法					力学的エネルギーを用いた物理療法機器の使用手順についてイメージしておく。(60分)	
	第11回	水治療法 ・水治療法の効果、温浴、冷浴、水中運動療法を用いた治療方法					水治療法の効果を整理する。水治療法機器の使用手順をイメージしておく。(60分)	
	第12回	温熱療法・寒冷療法の臨床 ・温熱療法、寒冷療法機器を用いた演習					温熱・寒冷療法機器が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)	
	第13回	電磁エネルギーを用いた物理療法の臨床 ・電磁エネルギーを用いた物理療法機器の演習					電磁エネルギーを用いた物理療法機器が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)	
	第14回	力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法の臨床 ・力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法機器を用いた演習					力学的エネルギー、水治療法が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)	
第15回	総括 ・各物理療法のまとめ					今までの講義をまとめ、復習しておく。(60分)		
成績評価方法	毎回の演習レポート50%、期末試験50% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	物理療法学テキスト 改訂第3版(南江堂)						978-4-524-25179-7	
参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学(メジカルビュー社)						978-4-758320061	
	エビデンスから身につける物理療法(羊土社)						978-4-758102216	
教員からのメッセージ	物理療法機器を実際に使用するイメージをつけるため、しっかりと機器を操作していくこと。							
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること							
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、物理療法を用いた介入について、講義や実技を行う。							

科目コード	R6018	授業科目名	小児理学療法学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高							
授業の概要	<p>出生時から歩行獲得時期までの遊びや活動の変化および知的発達と運動発達の関連性を細解きながら、何が、何のために、どのような運動を発達させるのかを考えることで、基礎的な運動発達の知識を学修する。また、脳性麻痺をはじめとする小児期発症疾患の病態と基本的な理学療法評価について学修する。また、症例を通して理学療法評価の立案やICFに沿った障害像の構築過程を問題解決型学習(PBL)形式で学修する。</p>							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ △ ○
到達目標	①何が人を発達させるのか?発達に必要な要素について、例を挙げて説明できる。 ②運動発達に反射や反応がどのように影響しているのか、例を挙げて説明できる。 ③脳性麻痺の病態について説明できる。 ④脳性麻痺に対する理学療法評価法を5つ以上列挙し、その必要性を説明できる。							
履修上の注意事項	講義を欠席した場合、確認テストや課題が実施できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 出席確認はC-learningで行います。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	講義ガイダンス/小児期発症疾患に対する理学療法の視点と学んでほしいこと					事前・事後学修事項は特にございませんが、シラバスの内容や講義スケジュールをご確認ください。	
	第2回	視覚の発達と遊び(運動)の関連性をこどもの活動から考える					講義内容の復習(1時間)	
	第3回	仰臥位の発達と反射の関連性をこどもの活動から考える(教科書5・6ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第4回	寝返りの発達と反射・反応の関連性をこどもの活動から考える(教科書5・6ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第5回	腹臥位の発達と反射の関連性をこどもの活動から考える(教科書7・8ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第6回	座位の発達と反射・反応の関連性をこどもの活動から考える(教科書8～10ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第7回	四つ這いの発達と反射・反応の関連性をこどもの活動から考える(教科書8～10ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第8回	立位や歩行の発達と反射・反応の関連性をこどもの活動から考える(教科書11ページ、48～69ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第9回	まとめ:粗大運動の発達と理学療法評価方法(教科書2～11ページ、48～69ページ)					第1回～8回までの復習(1時間) 講義内容の復習(1時間)	
	第10回	遊びと手指の発達(教科書12～14ページ)					講義内容の復習(1時間)	
	第11回	小児の発達評価(教科書15ページ～)					講義内容の復習(1時間)	
	第12回	小児期発症疾患について					講義内容の復習(1時間)	
	第13回	脳性麻痺の病態理解(教科書76ページ～)					講義内容の復習(1時間)	
	第14回	脳性麻痺児(者)にける評価(教科書76ページ～)					講義内容の復習(1時間)	
第15回	脳性麻痺児(者)にける障害像の構築と理学療法(教科書76ページ～)					講義内容の復習(1時間)		
成績評価方法	期末試験(70%)および講義内の確認テストや課題(30%)の点数によって評価する。 期末試験は、再試験までとする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	小児理学療法学テキスト改訂第3版、細田多穂 編集(南江堂)					978-4-524-25533-7		
参考書	参考資料としてプリントを配布することがあります。							
教員からのメッセージ	少しでもこどもの発達や理学療法に興味を持っていただけたら嬉しいです。 興味は活動を促しスキルの獲得へとつながります。							
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス:uma@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	小児理学療法の臨床経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R6019	授業科目名	基礎運動療法学演習					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	伊藤 祥史・上川 紀道・谷岡 龍一							
授業の概要	運動療法を適切に行うために必要な基礎知識と技術を習得することを目的とする。基本的な各種運動療法(関節可動域練習、筋力増強、筋持久力練習、協調性の改善練習、バランス、基本動作等々)の技術を学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ △
到達目標	1.運動療法の基礎を理解し、実際に実施できるようになる。 2.基本的な運動療法プログラムが実施できるようになる。							
履修上の注意事項	実習着を着用してください(ケジー上下)。配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等してもらってください。授業中の私語ならびに携帯電話(スマートフォン)使用は禁止します。教員3名のオムニバスで講義します。1教員の講義3分の1を超えて休むと期末試験の受験を認めない為、注意してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	筋の構造と機能					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第4回	筋力低下に対する運動療法					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第5回	持久力低下に対する運動療法					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第6回	痛みに対する運動療法1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第7回	痛みに対する運動療法2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第8回	マッサージと徒手療法1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第9回	マッサージと徒手療法2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第10回	徒手療法のまとめ					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第11回	運動療法に必要な運動学の基礎知識1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第12回	運動療法に必要な運動学の基礎知識2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第13回	運動療法と運動学習1					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
	第14回	運動療法と運動学習2					講義で習ったことを必ず復習する。次週の小テストに向けて復習する。(60分)	
第15回	運動療法まとめ					講義で習ったことを必ず復習する。(60分)		
成績評価方法	期末試験90%、小テスト10% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	運動療法学					978-4-8306-4342-2		
参考書	運動療法学 総論					978-4-260-02786-1		
教員からのメッセージ	感染対策に留意しながら実習は積極的に参加し、意味を理解して実施しましょう。実習態度(自主性・積極性)も評価に含まれます。講義で理解できないことは、放置せず担当教員に質問し、復習すること。運動療法ができないとPTの仕事はできません。実技が上手になるよう練習しましょう。毎回の授業後、注意点や特に大事な点をチェックすること。							
教員との連絡方法	オフィスアワーやCラーニングを利用してください。							
実務経験のある教員	実際臨床で理学療法士として働いていた教員で構成されます。その経験を生かして運動療法の基礎を指導します。							

科目コード	R6020	授業科目名	神経生理学療法学 I					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	猪村 剛史							
授業の概要	脳卒中について、神経解剖学等の復習を行いながら疾患の病態を理解する。また、脳卒中により呈しやすい障害を学ぶとともに障害に応じた理学療法の評価と治療について学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ ○
到達目標	脳卒中の病態や疫学について説明できる。 中枢神経の構造と機能について説明できる。 脳卒中患者の障害構造をICFに基づき説明できる。 脳卒中患者に対する理学療法評価や各病期における理学療法の実際を理解し、実習科目に活用できる。							
履修上の注意事項	授業中の私語は禁止します。 指示した時以外は、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の使用は禁止します。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	脳血管障害・その他の脳損傷疾患の病態とその疫学					脳損傷疾患の病態とその疫学について復習する(60分)。	
	第2回	脳の機能と構造 ① ～運動～					運動に関連する脳の機能と構造について復習する(60分)。	
	第3回	脳の機能と構造 ② ～感覚、脳血管の走行と灌流領域～					感覚に関連する脳の機能と構造について復習する(60分)。	
	第4回	中枢性運動障害の病態とその特徴					中枢性運動障害の病態について復習する(60分)。	
	第5回	中枢性運動障害に対する理学療法評価 ① 機能障害					中枢性運動障害の機能障害の評価について復習する(60分)。	
	第6回	中枢性運動障害に対する理学療法評価 ② 活動・参加					中枢性運動障害の活動・参加の評価について復習する(60分)。	
	第7回	高次脳機能障害について					高次脳機能障害について復習する(60分)。	
	第8回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法 ① 一般的トレーニングと課題特異的トレーニング					脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法について復習する(60分)。	
	第9回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法 ② 装具療法、機能的電気刺激、ロボット治療					脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法について復習する(60分)。	
	第10回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法 ③ 合併症					脳卒中後片麻痺患者の合併症について復習する(60分)。	
	第11回	脳卒中患者に対する理学療法における脳画像評価					脳卒中後片麻痺患者の脳画像評価について復習する(60分)。	
	第12回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法の実際(急性期理学療法①)					脳卒中後片麻痺患者に対する急性期理学療法について復習する(60分)。	
	第13回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法の実際(急性期理学療法②)					脳卒中後片麻痺患者に対する急性期理学療法について復習する(60分)。	
	第14回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法の実際(回復期理学療法)					脳卒中後片麻痺患者に対する回復期理学療法について復習する(60分)。	
第15回	脳卒中後片麻痺患者に対する理学療法の実際(生活期理学療法)					脳卒中後片麻痺患者に対する生活期理学療法について復習する(60分)。		
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	神経障害理学療法 I 第2版・大畑 光司 他(中山書店)☑					978-4-521-74496-4		
参考書	病気がみえる (vol.7) 脳・神経 第2版・医療情報科学研究所(メディックメディア)☑					978-4-896-32686-4		
教員からのメッセージ	疑問に思ったことやわからないことはそのままにせず積極的に質問するようにしましょう。							
教員との連絡方法	講義前後、メール(imura@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員	脳神経外科領域における急性期・回復期・生活期理学療法の実務経験をもとに神経理学療法の基礎知識を教育する。							

科目コード	R6021	授業科目名	神経系理学療法学Ⅱ						
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位	
担当者	甲田 宗嗣								
授業の概要	神経難病を含む神経疾患(脳卒中を除く)および脊髄損傷の病態と理学療法について講義する。								
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △	
到達目標	神経疾患および脊髄損傷の病態を理解できる。 神経疾患および脊髄損傷の障害を理解し、評価することができる。 神経疾患および脊髄損傷の障害に応じた理学療法を理解できる。								
履修上の注意事項	C-learningを利用するので、スマートフォン等にインストールし、準備しておくこと。								
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修		
	第1回	運動失調 ・病態					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第2回	運動失調 ・評価・理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第3回	パーキンソン病 ・病態					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第4回	パーキンソン病 ・評価・理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第5回	頭部外傷、低酸素脳症 ・病態・評価・理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第6回	多発性硬化症、ギラン・バレー症候群 ・病態・評価・理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第7回	筋萎縮性側索硬化症 ・病態・評価・理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第8回	中間まとめ					中間まとめの確認(60分)		
	第9回	脊髄の解剖と機能、脊髄損傷の病態					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第10回	脊髄損傷の症状、合併症					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第11回	脊髄損傷の評価					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第12回	四肢麻痺の理学療法(急性期)					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第13回	四肢麻痺の理学療法(回復期)					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
	第14回	対麻痺の理学療法					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)		
第15回	脊髄損傷者の社会復帰					神経筋障害理学療法学テキスト該当ページを熟読(60分)			
成績評価方法	筆記試験:100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。								
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード			
	神経筋障害理学療法学テキスト・細田多穂(南江堂)					978-4-524-25257-2			
参考書	ベッドサイドの神経の診かた・田崎義昭(南山堂)					978-4525247980			
教員からのメッセージ	授業をしっかり聞いて理解してください。								
教員との連絡方法	C-learningを利用してください。								
実務経験のある教員	急性期病院で、脳卒中や脳腫瘍に対する急性期、回復期理学療法の診療実績、回復期リハビリテーション病院で脳卒中、神経難病、脊髄損傷などの神経疾患全般の診療実績、大学附属無床診療所で神経筋疾患に対する慢性期理学療法の診療実績がある。専門理学療法士(神経、運動器、基礎、教育・管理)、公認心理師、呼吸療法認定士。								

科目コード	R6022	授業科目名	運動器系理学療法学							
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位		
担当者	上川 紀道									
授業の概要	様々な運動器疾患の特徴や症状、評価、治療について講義する。そのために、運動器疾患の発生機序とその症状、原因を理解すること、根拠に基づいた評価方法を理解すること、各疾患の治療方法(保存療法、手術療法)、さらにリハビリテーションを進めていく上でのリスク管理を考慮したプログラムを理解することが目標となる。なお、近年においては障害の発生に対するリハビリテーションのみならず、障害を予防する観点についても知識を身につけることが必要である。そのために、障害がなぜ発生したのか、日常生活をどのように送られているのかなど、より対象者に近い立場で障害について考える力が必要である。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						△	◎	○	○
※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器とは何かを説明することができる。 ・運動器疾患の発生機序について説明することができる。 ・運動器疾患の症状について説明することができる。 									
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料は事前にCラーニング上にアップするので、必ず自身で印刷またはダウンロードしたデータを持参すること(タブレット可)。 ・講義の最後に課題を提示します。提出期限を厳守してください。 									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・運動器とは何か:筋、骨					解剖学(筋・骨)について復習しておく。(60分)			
	第2回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・運動器とは何か:腱・関節・関節包・靭帯					解剖学(関節・靭帯)について復習しておく。(60分)			
	第3回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・関節の固定性について、メカニカルストレスについて					今までの講義について復習しておく。(60分)			
	第4回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・マルアライメントについて					今までの講義について復習しておく。(60分)			
	第5回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・運動連鎖:OKC、CKC					今までの講義について復習しておく。(60分)			
	第6回	変形性股関節症の特徴や症状について ・講義資料を見ながら図で理解してイメージをつける					変形性股関節症について復習しておく。(60分)			
	第7回	変形性股関節症の特徴や症状について ・テキストを見ながら文章を理解して表現能力をつける					変形性股関節症について復習しておく。(60分)			
	第8回	変形性膝関節症の特徴や症状について ・講義資料を見ながら図で理解してイメージをつける					変形性膝関節症について復習しておく。(60分)			
	第9回	変形性膝関節症の特徴や症状について ・テキストを見ながら文章を理解して表現能力をつける					変形性膝関節症について復習しておく。(60分)			
	第10回	THAとTKAについて ・講義資料とテキストを見ながら術式や脱臼部位について知識をつける					変形性股関節症と変形性膝関節症の講義について復習しておく。(60分)			
	第11回	肩関節周囲炎の特徴や症状について ・講義資料とテキストを見ながら図と文章を理解して表現能力をつける					解剖学・運動学について復習しておく。(60分)			
	第12回	関節リウマチの特徴や症状について ・講義資料とテキストを見ながら図と文章を理解して表現能力をつける					解剖学について復習しておく。(60分)			
	第13回	大腿骨頸部骨折と脊椎圧迫骨折の特徴や症状について ・テキストを見ながら文章を理解して表現能力をつける					整形外科学総論の骨折について復習しておく。(60分)			
	第14回	腰部疾患の特徴や症状について ・講義資料を見ながら図で理解してイメージをつける					解剖学について復習しておく。(60分)			
第15回	腰部疾患の特徴や症状について ・テキストを見ながら文章を理解して表現能力をつける					腰部疾患について復習しておく。(60分)				
成績評価方法	<p>期末試験(100%)</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	運動器障害理学療法学Ⅰ・石川 朗(中山書店)					978-4-521-73229-9				
	運動器障害理学療法学Ⅱ・石川 朗(中山書店)					978-4-521-73230-5				
参考書										
教員からのメッセージ	解剖学・運動学・生理学・整形外科学総論の復習を随時行うようにしてください。									
教員との連絡方法	講義が始まる20分前には教室にスタンバイしていますので、そこで直接質問していただくことが可能です。また、講義最後にGoogle formで質問する機会を必ず設けます。									
実務経験のある教員	理学療法士として整形外科のクリニックで様々な運動器疾患の患者様に対してリハビリテーションを実施してきた教員が担当します。当該授業を通して理学療法士が実際にどのような考え方で患者様に接し、どのような評価や治療を実施していくのかを共に考え議論することで、どんな疾患や患者様に対しても対応できる力を身に付けることを目指す講義です。									

科目コード	R6023	授業科目名	運動器系理学療法学演習					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	上川 紀道・江越 正次朗・石倉 英樹							
授業の概要	運動器系理学療法学の講義で得た、各疾患に対する病態の知識を基に、特徴や病態の説明、評価方法、理学療法をデモンストレーションしながら学修する。また、学生同士で演習することで、より実践に近い形での技術の習得を目指す。各疾患に対する理学療法においては、骨折や術後の荷重練習や松葉杖処方、歩行練習や介助方法に至るまで、受傷から手術、社会復帰に向けた包括的な考え方と手段を身につけること、リスクを考慮した運動療法や動作練習、個々人に合わせた運動療法プログラムの作成ができるようになることが目標となる。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ ○
到達目標	・運動器疾患の病態を考慮した評価を選択・実施することができる。 ・患者様の訴えから評価を選択・実施して問題点を抽出することができる。 ・評価から得られた問題点に対して、安全で効果的な治療内容を選択して実施することができる。							
履修上の注意事項	・講義資料は事前にCラーニング上にアップするので、必ず自身で印刷またはダウンロードしたデータを持参すること(タブレット可)。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・運動の種類、筋の種類、筋収縮の種類、運動連鎖、メカニカルストレスなど					運動学について復習しておく。(60分)	
	第2回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・凹凸の法則、しまりの肢位とゆるみの肢位など					運動学について復習しておく。(60分)	
	第3回	運動器疾患を理解するために必要な基礎知識 ・姿勢による関節可動域の変化と筋力の変化					関節可動域測定について復習しておく。(60分)	
	第4回	障害発生の原因について考える ・Joint by Joint theory①					各関節の機能について復習しておく。(60分)	
	第5回	障害発生の原因について考える ・Joint by Joint theory②					各関節の機能について復習しておく。(60分)	
	第6回	評価について考える ・動作時痛を評価をする上で大事なこと					理学療法評価学について復習しておく。(60分)	
	第7回	評価について考える ・動作を分解して問題点を抽出するという①					理学療法評価学について復習しておく。(60分)	
	第8回	評価について考える ・動作を分解して問題点を抽出するという②					理学療法評価学について復習しておく。(60分)	
	第9回	ストレッチ ・セルフストレッチとパートナーストレッチ					筋の起始停止について復習しておく。(60分)	
	第10回	筋力トレーニング ・患者様への実施方法と自重トレーニング					筋の作用について復習しておく。(60分)	
	第11回	松葉杖歩行 ・松葉杖の概要と処方					講義の復習(60分)	
	第12回	松葉杖歩行 ・立位バランス訓練					講義の復習(60分)	
	第13回	松葉杖歩行 ・松葉杖歩行演習					講義の復習(60分)	
	第14回	松葉杖歩行 ・模擬症例演習					講義の復習(60分)	
第15回	運動器系理学療法学の演習 ・大腿骨近位部骨折に対する理学療法					下肢の筋骨格について復習しておく。(60分)		
成績評価方法	期末試験(100%) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	運動器障害理学療法学Ⅰ・石川 朗(中山書店)					978-4-521-73229-9		
	運動器障害理学療法学Ⅱ・石川 朗(中山書店)					978-4-521-73230-5		
参考書								
教員からのメッセージ	解剖学・運動学・生理学・整形外科学総論・理学療法評価学の復習を随時行うようにしてください。							
教員との連絡方法	講義が始まる15分前には教室にスタンバイしていますので、そこで直接質問していただくことが可能です。また、講義最後にGoogle formで質問する機会を必ず設けます。							
実務経験のある教員	理学療法士として整形外科のクリニックや病院で外来・入院を含む様々な運動器疾患の患者様に対してリハビリテーションを実施してきた教員が担当します。当該授業を通して理学療法士が実際にどのような考え方で患者様に接し、どのような評価や治療を実施していくのかを共に考え議論することで、どんな疾患や患者様に対しても対応できる力を身につけることを目指す講義です。							

科目コード	R6024	授業科目名	神経理学療法学演習 I					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	猪村 剛史・石倉 英樹・田邊 淳平							
授業の概要	脳卒中により呈しやすい障害をICFに基づき障害構造毎に学ぶとともに、障害に応じた理学療法の評価と治療について学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ ○
到達目標	脳卒中患者の障害構造をICFに基づき説明できる。 脳卒中患者に対する基本的な理学療法評価を模擬患者に対して実践できる。 脳卒中患者に対する理学療法プロセスを理解し、実習科目に活用できる。							
履修上の注意事項	授業中の私語は禁止します。 指示した時以外は、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の使用は禁止します。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (1) 機能障害 ① (猪村)					機能障害の評価について復習する (60分)。	
	第2回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (1) 機能障害 ② (猪村)					機能障害の評価について復習する (60分)。	
	第3回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (1) 機能障害 ③ (猪村)					機能障害に対する治療について復習する (60分)。	
	第4回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (1) 機能障害 ④ (猪村)					機能障害に対する治療について復習する (60分)。	
	第5回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (2) 活動・参加 ① (石倉)					活動・参加の評価について復習する (60分)。	
	第6回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (2) 活動・参加 ② (石倉)					活動・参加の評価について復習する (60分)。	
	第7回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (2) 活動・参加 ③ (石倉)					活動・参加に対する治療について復習する (60分)。	
	第8回	中枢性運動障害に対する評価・治療 (2) 活動・参加 ④ (石倉)					活動・参加に対する治療について復習する (60分)。	
	第9回	高次脳機能障害に対する評価・治療 (田邊)					高次脳機能障害の評価と治療について復習する (60分)。	
	第10回	脳卒中患者の動作分析、日常生活動作全般 ① (田邊)					脳卒中患者に対する動作分析について復習する (60分)。	
	第11回	脳卒中患者の動作分析、日常生活動作全般 ② (田邊)					脳卒中患者に対する動作分析について復習する (60分)。	
	第12回	脳卒中患者の動作分析、日常生活動作全般 ③ (田邊)					脳卒中患者の日常生活について復習する (60分)。	
	第13回	脳卒中患者の動作分析、日常生活動作全般 ④ (田邊)					脳卒中患者の日常生活について復習する (60分)。	
	第14回	実技試験に向けた練習 (猪村)					実技試験に向け、実技の復習を行う (60分)	
第15回	実技試験 (猪村、石倉、田邊)					実技試験に向け、実技の事前学習を行う (60分)		
成績評価方法	実技試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	神経障害理学療法 I 第2版・大畑 光司 他(中山書店)					978-4-521-74496-4		
参考書								
教員からのメッセージ	疑問に思ったことやわからないことはそのままにせず積極的に質問するようにしましょう。							
教員との連絡方法	講義前後、メール (猪村:imura@hcu.ac.jp、石倉:ishikura@hcu.ac.jp、田邊:tanabe@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員	病院での理学療法士としての実務経験をもとに神経理学療法領域の評価・治療の基礎知識を教育する。							

科目コード	R6025	授業科目名	神経系理学療法学演習Ⅱ							
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位		
担当者	甲田 宗嗣・田邊 淳平									
授業の概要	脳卒中以外の中枢神経疾患に関する評価と介入について、実技練習や課題遂行により理解を深める。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力						—	◎	○	△
到達目標	代表的な中枢神経疾患の理学療法の実技を体験する。 代表的な中枢神経疾患を有する症例の評価項目を選定できる。 代表的な中枢神経疾患を有する症例の病態、評価、介入の関連を説明できる。									
履修上の注意事項	実技を行う機会が多いので、動きやすい服装にて受講してください。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	オリエンテーション(甲田)					理学療法のプロセス、評価の位置付けを復習(60分)			
	第2回	脊髄損傷の理学療法1(甲田、田邊) ・関節可動域測定と関節可動域運動					関節可動域に関連した基礎知識の復習(60分)			
	第3回	脊髄損傷の理学療法2(甲田、田邊) ・筋力増強運動、移乗・その他の動作練習					筋力増強運動に関連した基礎知識の復習(60分)☒			
	第4回	脊髄損傷の理学療法3(甲田、田邊) ・車椅子操作、駆動練習					車椅子操作の実技練習(60分)			
	第5回	脊髄損傷の理学療法4(甲田、田邊) ・歩行練習					歩行補助具の種類別特性を調べる(60分)			
	第6回	運動失調の理学療法1(田邊、甲田) ・演習を用いた運動失調の病態の復習					運動失調の病態に関する知識の予習(60分)			
	第7回	運動失調の理学療法2(田邊、甲田) ・演習を用いた運動失調、バランス障害に対する評価の復習					運動失調、バランス障害に対する評価の予習(60分)			
	第8回	運動失調の理学療法3(田邊、甲田) ・運動失調による座位、立位バランス障害に対する理学療法介入					座位・立位バランスへの介入の復習(60分)			
	第9回	運動失調の理学療法4(田邊、甲田) ・運動失調による歩行障害に対する理学療法介入					歩行障害に対する介入の復習(60分)			
	第10回	運動失調の理学療法5(田邊、甲田) ・症例提示から問題点の列挙、理学療法介入を考える					運動失調患者に対する理学療法介入の予習 ICFモデルの予習(60分)			
	第11回	演習課題の説明、模擬症例の提示(甲田、田邊)					演習課題作成(60分)			
	第12回	演習(甲田、田邊)					文献検索、熟読(120分)			
	第13回	演習(甲田、田邊)					文献検索、熟読(120分)			
	第14回	グループ内発表、相互評価(甲田、田邊)								
第15回	優秀学生による全体発表(甲田、田邊)									
成績評価方法	授業内で配布するワークシート、演習課題:100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	プリントを配布									
参考書										
教員からのメッセージ	演習は主体的、積極的に参加すること。									
教員との連絡方法	C-learningを利用してください。									
実務経験のある教員	甲田:回復期リハビリテーション病院で脳卒中、神経難病、脊髄損傷など神経筋疾患の診療実績がある、専門理学療法士(神経、運動器、基礎、教育・管理)、公認心理師、呼吸療法認定士。田邊:回復期病院で中枢疾患患者を中心にリハビリを経験。中枢疾患患者の病態の一つである運動失調に焦点を当て、根拠と経験から病態、評価方法、理学療法介入について講義を行う。									

科目コード	R6026	授業科目名	小児理学療法学演習					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高・石倉 英樹							
授業の概要	小児期発症疾患の病態や各成長段階において、将来に起こり得る二次障害を予測しながら理学療法を構築するための基礎知識や治療法について演習する。 また、症例を通して理学療法評価の立案やICFに沿った障害像の構築および介入方法について問題解決型学習(PBL)形式で学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ △ ○
到達目標	①小児期発症疾患の理学療法について説明できる(3疾患以上)。 ②脳性麻痺に発症しうる二次障害を3つ以上列挙できる。 ③それに対する理学療法手段を各3つ以上列挙することができる。 ④子どもの将来像を見据えた理学療法的重要性について説明できる。							
履修上の注意事項	講義は実技が中心になります。ジャージまたはケーシーを着用し受講してください。 講義を欠席した場合、確認テストや課題が実施できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 出席確認はC-learningで行います。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション/小児期発症疾患に対する理学療法の視点と本講義で学んでほしいこと(馬屋原・石倉)					予習として2年次講義で講義した小児理学療法学の内容を復習しておくこと(1時間)	
	第2回	小児期発症疾患の病態理解(脳性麻痺を中心に)(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
	第3回	脳性麻痺における二次障害の評価と予防(股関節脱臼)(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第4回	脳性麻痺における二次障害の評価と予防(側彎)(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第5回	脳性麻痺における呼吸障害の評価と理学療法介入方法(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第6回	二分脊椎の病態と障害像(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
	第7回	二分脊椎における理学療法評価と介入方法(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第8回	小児神経筋疾患の病態と障害像(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
	第9回	小児神経筋疾患における理学療法評価と介入方法(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第10回	ダウン症の病態および理学療法評価と介入方法(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
	第11回	発達障害の病態および理学療法評価と介入方法(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第12回	小児の摂食機能療法と理学療法士の関わり(馬屋原・石倉)					講義内容の復習(1時間)	
	第13回	新生児期の理学療法と子どもの将来像を考える視点(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
	第14回	学齢期の理学療法と子どもの将来像を考える視点(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)	
第15回	特別支援学校における理学療法士の関わりと就労支援(馬屋原)					講義内容の復習(1時間)		
成績評価方法	期末試験(70%)および講義内の確認テストや課題(30%)の点数によって評価する。 期末試験は、再試験までとする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	小児理学療法学テキスト改訂第3版、細田多穂 編集(南江堂)					978-4-524-25533-7		
参考書	参考資料としてプリントを配布することがあります。							
教員からのメッセージ	少しでも子どもの発達や理学療法に興味を持っていただけたら嬉しいです。 興味は活動を促しスキルの獲得へとつながります。 2年次に開講した「小児理学療法学」に関連した講義です。事前に復習して本講義を受講してください。							
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス:uma@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	小児理学療法法の臨床経験および特別支援学校における理学療法士の経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R6027	授業科目名	義肢学					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	猪村 剛史・大塚 彰・中川 敬汰							
授業の概要	義肢(義足・義手)の種類と機構を学習する。また、切断者の理学療法の実際について学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ ○
到達目標	義肢(義足・義手)の種類について説明できる。 義肢(義足・義手)の機構について説明できる。 切断者の理学療法の実際を理解し、実習科目に活用できる。							
履修上の注意事項	授業中の私語は禁止します。 授業中のスマートフォン・タブレット端末の使用は禁止します。 2コマ連続で授業を行います。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	大腿義足:ソケット・膝継ぎ手・足部(中川)					大腿義足のソケット・膝継ぎ手・足部について復習する(60分)。	
	第2回	大腿義足:パンチアライメント・静的アライメント・動的アライメント(異常歩行)(中川)					大腿義足のアライメントについて復習する(60分)	
	第3回	大腿義足:異常歩行とその修正(中川)					大腿義足の異常歩行について復習する(60分)	
	第4回	下腿義足:各種ソケット・アライメント・異常歩行(中川)					下腿義足のソケットやアライメント・異常歩行について復習する(60分)	
	第5回	股義足・膝義足・サイム義足:特色(中川)					股義足・膝義足について復習する(60分)	
	第6回	下肢切断者のリハビリテーション:術後ポジショニング・断端ケアなど(中川)					肢位・断端ケアについて復習する(60分)	
	第7回	下腿切断者のリハビリテーション:歩行訓練・応用訓練(中川)					歩行訓練・応用訓練について復習する(60分)	
	第8回	義足総着前・装着後訓練・弾力包帯・切断者の評価(大塚)					義足装着前・装着後訓練・弾力包帯施行・切断者の評価について復習する(60分)	
	第9回	義手:分類・処方と構成・機構など①(大塚)					義手の分類と処方などについて復習する(60分)	
	第10回	義手:処方と構成・機構など②(大塚)					義手の構成と機構について復習する(60分)	
	第11回	ハーネスコントロールシステム(大塚)					ハーネスコントロールシステムについて復習する(60分)	
	第12回	実習(ギプス採型)(大塚、猪村、中川)					ギプス採型について復習する(60分)	
	第13回	実習(ギプス採型)(大塚、猪村、中川)					ギプス採型について復習する(60分)	
	第14回	実習(ギプス採型)(大塚、猪村、中川)					ギプス採型について復習する(60分)	
第15回	実習(ギプス採型)(大塚、猪村、中川)					ギプス採型について復習する(60分)		
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	イラストでわかる義肢療法・(監修)上杉雅之(医歯薬出版株式会社)					978-4-263-26645-8		
参考書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学 第2版・(総編集)石川朗(中山書店)					978-4-521-73225-1		
教員からのメッセージ	疑問に思ったことやわからないことはそのままにせず積極的に質問するようにしましょう。							
教員との連絡方法	講義前後、メール(猪村:imura@hcu.ac.jp、中川:nakagawa@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員	病院での理学療法士としての実務経験をもとに義肢の基礎知識を教育します。							

科目コード	R6028	授業科目名	装具学					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	猪村 剛史							
授業の概要	装具(下肢装具・上肢装具・体幹装具)の種類と機構について学習する。また、各疾患の病態(または障害)を十分に理解し、それらに適応する装具を学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ ○ ○
到達目標	装具の種類について説明できる。 装具の機構について説明できる。 装具を活用した理学療法の実際を理解し、実習科目に活用できる。							
履修上の注意事項	授業中の私語は禁止します。 授業中のスマートフォン・タブレット端末の使用は禁止します。 2コマ連続で授業を行います。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	装具学総論					装具の全体像について復習する(60分)	
	第2回	下肢装具について①					下肢装具について復習する(60分)。	
	第3回	下肢装具について②					下肢装具について復習する(60分)。	
	第4回	上肢装具について①					上肢装具について復習する(60分)。	
	第5回	上肢装具について②					上肢装具について復習する(60分)。	
	第6回	体幹装具について①					体幹装具について復習する(60分)。	
	第7回	体幹装具について②					体幹装具について復習する(60分)。	
	第8回	疾患と装具療法～神経疾患1～					神経疾患と装具の関わりについて復習する(60分)	
	第9回	疾患と装具療法～神経疾患2～					神経疾患と装具の関わりについて復習する(60分)	
	第10回	疾患と装具療法～骨・関節疾患1～					骨・関節疾患と装具の関わりについて復習する(60分)	
	第11回	疾患と装具療法～骨・関節疾患2～					骨・関節疾患と装具の関わりについて復習する(60分)	
	第12回	装具の作製・支給にまつわる各種制度					装具の作製・支給にまつわる各種制度について復習する(60分)	
	第13回	装具領域の最近のトピックス1～上肢領域～					上肢領域の最近のトピックスについて復習する(60分)	
	第14回	装具領域の最近のトピックス2～下肢領域～					下肢領域の最近のトピックスについて復習する(60分)	
第15回	これまでの講義のまとめ					科目全体の重要箇所を復習する(60分)		
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	リハビリテーション義肢装具学・清水 順市、青木 主税(メジカルビュー社) イラストでわかる装具療法・長倉裕二、岩瀬弘明(医歯薬出版株式会社)					978-4758317221 978-4-263-26646-5		
参考書								
教員からのメッセージ	疑問に思ったことやわからないことはそのままにせず積極的に質問するようにしましょう。							
教員との連絡方法	講義前後、メール(猪村:imura@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員	病院での理学療法士としての実務経験をもとに装具の基礎知識を教育します。							

科目コード	R6029	授業科目名	内部障害理学療法治療学 I					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高							
授業の概要	呼吸器疾患、がんなど内部疾患の病態と基本的な理学療法評価および治療(介入方法)について学修する。 また、症例を通して病態に適應する理学療法評価項目の立案やICFに沿った障害像の構築過程を問題解決型学習(PBL)形式で学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ ○
到達目標	①COPDの基本的な理学療法評価の項目を5つ以上列挙することができる。 ②COPDの基本的な理学療法プログラムや生活指導方法について5つ以上列挙することができる。 ③がんの病期に適應した基本的な理学療法の内容を説明できる。 ④吸引の適應やリスクについて説明できる。							
履修上の注意事項	・出席確認はC-learningで行います。 ・講義を欠席した場合、確認テストや課題が実施できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 ・スマートフォン等のカメラ機能を使用した黒板やスライドの撮影は厳禁とします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション／内部障害の理学療法とは					事後学修(1時間)	
	第2回	呼吸器疾患評価のための基礎知識					事後学修(1時間)	
	第3回	呼吸器疾患における血液データの特徴とその解釈					事後学修(1時間)	
	第4回	呼吸器疾患における画像所見の特徴とその解釈					事後学修(1時間)	
	第5回	COPDの呼吸理学療法① 評価(理学所見)					事後学修(1時間)	
	第6回	COPDの呼吸理学療法② 運動療法					事後学修(1時間)	
	第7回	COPDの呼吸理学療法③ 生活指導					事後学修(1時間)	
	第8回	確認テスト／COPD症例PBL					事前学習として第1回から第7回までの復習(1時間)	
	第9回	急性期の呼吸理学療法① 評価					事後学修(1時間)	
	第10回	急性期の呼吸理学療法② 治療手技・運動療法					事後学修(1時間)	
	第11回	神経筋疾患の呼吸理学療法 基本的評価および介入方法					事後学修(1時間)	
	第12回	重症心身障がいおよびNICUでの呼吸理学療法					事後学修(1時間)	
	第13回	摂食嚥下・誤嚥性肺炎の予防的呼吸理学療法					事後学修(1時間)	
	第14回	がんのリハビリテーション① 病態の理解と評価					事後学修(1時間)	
第15回	がんのリハビリテーション② 病期に応じた理学療法介入方法(PBL)					事後学修(1時間)		
成績評価方法	期末試験(70%)および講義内の確認テストや課題(30%)の点数によって評価する。 期末試験は、再試験までとする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 上杉雅之 監修 (医歯薬出版)					978-4-263-26611-3		
参考書	参考資料を配布する場合がございます。							
教員からのメッセージ	本講義を受講するにあたり、生理学、一般臨床医学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学Ⅱ・演習Ⅱを復習して受講してください。							
教員との連絡方法	馬屋原までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室 メールアドレス:uma@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	呼吸理学療法およびがん患者に対する理学療法の経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R6030	授業科目名	内部障害理学療法治療学Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	江越 正次朗							
授業の概要	糖尿病などの代謝疾患や、心不全、心筋梗塞、不整脈などの循環器系疾患における理学療法の評価および治療などについて学習します。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ —
到達目標	病態に応じた理学療法プログラム評価実施することができる。 病態に応じた理学療法プログラムを、評価内容を理解し、立案することができる。 リスク管理などを理解することができる。							
履修上の注意事項	小テストおよびレポート課題があります。 携帯電話等のカメラ機能を使用した黒板およびスライドの撮影は厳禁とします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション、心臓リハビリテーションに必要な循環器系の生理学・解剖学					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第2回	運動耐容能と評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第3回	心臓リハビリテーションに必要な心電図の知識					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第4回	虚血性心疾患の評価と治療					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第5回	心臓弁膜症と大動脈疾患の評価と治療					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第6回	慢性心不全の評価と治療					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第7回	心臓リハビリテーションのための評価					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第8回	心疾患患者のリスク層別化					前半内容の復習(60分)	
	第9回	循環器系疾患における薬物療法					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第10回	心臓リハビリテーションにおける治療プログラム					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第11回	心臓リハビリテーションにおけるリスク管理					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第12回	内分泌系疾患評価のための基礎知識(高血圧、脂質異常症など)					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第13回	内分泌系疾患評価のための基礎知識(糖尿病など)					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
	第14回	内分泌系疾患の理学療法					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)	
第15回	循環器系疾患および内分泌系疾患に対する理学療法のまとめ					テキストにて該当内容の予習と講義の復習(60分)		
成績評価方法	期末試験80%、小テストおよびレポート20%とする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 上杉雅之 監修 (医歯薬出版)					978-4-263-26611-3		
参考書								
教員からのメッセージ	呼吸・循環に関する基礎的な生理学的知識が必須です。生理学の復習を十分しておいてください。							
教員との連絡方法	研究室(研究棟201号室)へお越しください。							
実務経験のある教員	病院で理学療法に従事した経験のある教員が、内部障害理学療法について講義を行う。							

科目コード	R6031	授業科目名	内部障害理学療法治療学演習					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	馬屋原 康高・江越 正次朗・谷岡 龍一・廣江 健人							
授業の概要	呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病など内部障害における理学療法の評価および治療について学修する。さらに、症例を通して病態に適応する理学療法評価項目の立案、また評価結果に基づいた問題点について、どのような理学療法を展開するのかを問題解決型学習(PBL)形式で学修する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ ○
到達目標	①各内部障害の障害像を説明できる。 ②病態に応じた理学療法評価項目を列挙することができる。 ③病態や評価結果に応じた理学療法プログラムを立案することができる。							
履修上の注意事項	・授業1～12回までは2班に分かれて実施します。 ・講義を欠席した場合、確認テストや課題が実施できないため評価点に影響することを予めご承知おきください。 ・スマートフォン等のカメラ機能を使用した黒板やスライドの撮影は厳禁とします。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	呼吸器疾患の病態と評価(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第2回	呼吸器疾患の血液データの診かた(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第3回	呼吸器疾患の理学所見演習(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第4回	運動療法・ADL指導演習(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第5回	急性期の呼吸理学療法演習(聴診演習含む)(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第6回	神経筋疾患の呼吸理学療法演習(呼吸介助、咳嗽介助含む)(馬屋原・谷岡)					事後学修(1時間)	
	第7回	循環器疾患・血行動態評価のための基礎知識(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第8回	循環器疾患の評価(心電図)(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第9回	循環器疾患の評価(心肺運動負荷試験)(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第10回	循環器疾患に対する理学療法演習(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第11回	内分泌疾患評価のための基礎知識(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第12回	内分泌疾患に対する理学療法演習(江越・廣江)					事後学修(1時間)	
	第13回	吸引のための基礎知識(馬屋原)					事後学修(1時間) 吸引の手順を確認しておくこと	
	第14回	吸引演習(馬屋原・江越・谷岡・廣江)					事後学修(1時間)	
第15回	吸引演習(馬屋原・江越・谷岡・廣江)					事後学修(1時間)		
成績評価方法	各回のレポートや確認テストを集計し評価を行います(100%)。なお、吸引演習(第14回、15回)への出席は必須となります。学則で定める公欠以外で吸引演習を欠席した学生は単位認定をいたしませんので、ご注意ください。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	PT・OT入門 イラストでわかる内部障害 上杉雅之 監修 (医歯薬出版)					978-4-263-26611-3		
参考書	参考資料を配布する場合がございます。							
教員からのメッセージ	本講義を受講するにあたり、生理学、一般臨床医学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学Ⅱ・演習Ⅱを復習して受講してください。							
教員との連絡方法	馬屋原、江越までお問い合わせください。 西風新都キャンパス、研究棟4階401号室(馬屋原)、201号室(江越) メールアドレス:uma@hcu.ac.jp(馬屋原)、egoshi@hcu.ac.jp(江越)							
実務経験のある教員	呼吸理学療法、心臓リハビリテーション、糖尿病およびがん患者に対する理学療法の経験を有する教員が講義いたします。							

科目コード	R6032	授業科目名	老年期理学療法治療学							
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位		
担当者	平岩 和美									
授業の概要	高齢者は若年と比較し、多くの疾患を併存している。その特徴とリスクをふまえ、よく見られる疾患と症状について、どのような評価、治療を行うか講義する。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力						△	◎	○	○
到達目標	高齢者によく見られる症状と疾患について説明できる。注意すべきリスクをあげる事ができる。高齢者に対する理学療法を安全に行えるようにする。									
履修上の注意事項	配布資料は再配布しません。講義のために必要な物品(配布資料・ほか)を忘れず用意してください。講義中の私語、携帯電話を禁止します。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	高齢者の理解、老化の特徴					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による老化まとめ60分			
	第2回	高齢者に見られる精神疾患、認知症					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による認知症まとめ、認知症評価練習60分			
	第3回	虚弱高齢者の特徴と介護予防					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による介護予防まとめ60分			
	第4回	高齢者の体力評価と転倒予防					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による転倒予防まとめ60分			
	第5回	高齢者によくみられる周辺症状とリスク管理					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるリスク管理まとめ60分			
	第6回	高齢者に多い合併症の管理					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による合併症まとめ60分			
	第7回	栄養状態の評価、嚥下・摂食の理学療法					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による嚥下摂食理学療法まとめ60分			
	第8回	感染症対策、排尿障害					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による感染対策・排尿障害まとめ60分			
	第9回									
	第10回									
	第11回									
	第12回									
	第13回									
	第14回									
第15回										
成績評価方法	<p>期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。 ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。</p> <p>ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。</p>									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	高齢者理学療法学 島田裕之編 医歯薬出版					978-4-263-21743-6				
参考書	高齢者リハビリテーション実践マニュアル 宮越浩一 メジカルビュー					978-4-7583-2073-3				
教員からのメッセージ	配布資料についてわからない事は参考書で調べ質問してください。									
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp									
実務経験のある教員	平岩和美:急性期、老人保健施設、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションの理学療法診療経験と知見を教育にいかします。									

科目コード	R6033	授業科目名	スポーツ障害理学療法学							
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位		
担当者	上川 紀道									
授業の概要	スポーツ傷害・外傷に対する基本的な知識を習得し、各種スポーツ動作の検査・評価から治療までの流れを理解することを目的とする。あらゆるスポーツ傷害の評価・治療・アスレティックリハビリテーションにおいて最も重要なことは、傷害をできる限り早く治療させ、その患者を元の現場に受傷前と同様のレベルの能力で復帰させることにあるのは言うまでもない。それとともに、一例一例の障害の発生要因を丹念に分析し、予防もしくは再発予防に結びつけることが必要である。そのためにも、各種スポーツ動作特性を理解すること、年代別における目標設定の意義、患部だけでなく、全身的な問題点を抽出する考え方を学修する。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						○	◎	○	○
※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各スポーツ障害の病態を考慮した評価を選択・実施することができる。 患者様の訴えから評価を選択・実施して問題点を抽出することができる。 評価から得られた問題点に対して、安全で効果的な治療内容を選択して実施することができる。 									
履修上の注意事項	講義資料は事前にCラーニング上にアップするので、必ず自身で印刷またはダウンロードしたデータを持参すること(タブレット可)。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	スポーツ傷害とリハビリテーション ・スポーツ傷害に対するリハビリテーションの基本理念					基礎運動療法学について復習しておく。(60分)			
	第2回	評価について考える ・全身のアライメントチェック					骨について復習しておく。(60分)			
	第3回	スポーツ傷害とリハビリテーション ・スポーツ外傷障害の発生メカニズム、トレーニングの3原理5原則					メカニカルストレスについて復習しておく。(60分)			
	第4回	スポーツ障害について考える ・野球肩についてスライドを見ながら理解を深める					肩関節の解剖学・運動学について復習しておく。(60分)			
	第5回	スポーツ障害について考える ・半月板損傷についてスライドを見ながら理解を深める					膝関節の解剖学について復習しておく。(60分)			
	第6回	スポーツ傷害とリハビリテーション ・半月板損傷についてテキストから理解を深める					膝関節の運動学について復習しておく。(60分)			
	第7回	スポーツ障害について考える ・前十字靭帯損傷についてスライドを見ながら理解を深める					マルアライメントについて復習しておく。(60分)			
	第8回	スポーツ傷害とリハビリテーション ・前十字靭帯損傷についてテキストから理解を深める					マルアライメントについて復習しておく。(60分)			
	第9回	スポーツ傷害とリハビリテーション ・脊椎分離症、オスグッドシュラッター病についてテキストから理解を深める					筋の起始停止について復習しておく。(60分)			
	第10回	トレーニングの実践 ・チューブトレーニングとアジリティートレーニングを実際に行う					筋の作用について復習しておく。(60分)			
	第11回	キネシオテーピング ・キネシオテーピングの目的と各部位への貼り方を学ぶ					筋の起始停止について復習しておく。(60分)			
	第12回	キネシオテーピング ・キネシオテーピングの目的と各部位への貼り方を学ぶ					筋の起始停止について復習しておく。(60分)			
	第13回	ファンクショナルテーピング ・一連の流れを練習する					足関節の解剖学について復習しておく(60分)			
	第14回	ファンクショナルテーピング ・一連の流れを練習する					足関節の運動学について復習しておく(60分)			
第15回	ファンクショナルテーピング ・一連の流れを練習する					足関節の運動学について復習しておく(60分)				
成績評価方法	期末試験(100%) ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	スポーツ傷害のリハビリテーション・山下敏彦、武藤芳照(金原出版株式会社)					978-4-307-25140-2				
参考書										
教員からのメッセージ	解剖学・運動学・生理学・基礎運動療法学・整形外科学総論・理学療法評価学の復習を随時行うようにしてください。									
教員との連絡方法	講義が始まる15分前には教室にスタンバイしていますので、そこで直接質問していただくことが可能です。また、講義最後にGoogle formで質問する機会を必ず設けます。									
実務経験のある教員	理学療法士としてスポーツクリニックで様々なスポーツ障害を有する患者様に対してリハビリテーションを実施してきた教員が担当します。当該授業を通して理学療法士が実際にどのような考え方で患者様に接し、どのような評価や治療を実施していくのかを共に考え議論することで、どんな疾患や患者様に対しても対応できる力を身に付けることを目指す講義です。									

科目コード	R6034	授業科目名	産業理学療法学					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	藤村 昌彦							
授業の概要	産業保健分野は労働者の健康対策を行う領域であり、主な目的は労働者の傷害予防と健康の保持増進である。わが国の就業者数は6755万人(2022年)であるが、産業保健分野で働く理学療法士は少ない。今後、産業保健分野において理学療法士の活躍の場は増えると期待できる。本講座は労働者の健康増進に貢献できるように知識と技術を学習する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	労働現場で、傷害予防に関する情報の提供、評価、助言などの支援ができるようになる。 産業保健および産業保健に関連する業務、研究、各種活動に従事できる理学療法士になることを目指す。							
履修上の注意事項	配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等で対応してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	作業関連性筋骨格障害について学習する					作業関連性筋骨格障害について調べる(30分)	
	第2回	女性勤務者の職場環境について学習する					女性健康管理について調べる(30分)	
	第3回	職場における精神的ストレスについて学習する					精神的ストレスについて調べる(30分)	
	第4回	海外勤務者の健康について学習する					海外の職場環境について調べる(30分)	
	第5回	気温差の大きい職場環境について学習する					気温差が心身へ及ぼす影響について調べる(30分)	
	第6回	パソコン作業およびVDTストレスについて学習する					パソコン作業のストレスについて調べる(30分)	
	第7回	気圧変化の大きい職場環境について学習する					気圧差が心身へ及ぼす影響について調べる(30分)	
	第8回	職場における健康管理について総括する					未来の職場環境について考える(30分)	
	第9回	【8回講義のため以下余白】						
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	成績評価は期末試験(100%)で判定する。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	プリント配布							
参考書								
教員からのメッセージ	授業へ積極的に参加してください。わからないことがあれば、随時遠慮なく聞いてください。知識をたくさん持ち帰り、疑問はその場で解決して持ち帰らないようにしましょう。鉄は熱いうちに打ちましょう。							
教員との連絡方法	211教員室(masafuji@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員								

科目コード	R6035	授業科目名	応用理学療法特論					
履修区分	必修	開講期	4年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	ここまで学習してきた理学療法に関する知識を総合的、網羅的に確認する。講義はゼミ形式で行い、履修する学生が相互に理学療法に関連する課題について、グループワークで議論し、理解を深める。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ◎ △ △
到達目標	①医療全般の知識(共通分野)の理解を深めるとともに、理学療法との関連について説明できる。 ②理学療法の知識(専門分野)の理解を深め、理学療法の臨床場面を想定した応用的判断力を養う。							
履修上の注意事項	グループワークでの学習が重要になるため、グループ内で積極的に議論して学習を相互に進めること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	オリエンテーション、グループワークの基礎 ・グループワーク進行手順、共通分野・専門分野について					共通分野・専門分野の全体像をイメージしておく。(60分)	
	第2回	共通分野(解剖学) ・解剖学分野についてグループワーク学習					解剖学の復習ならびに解剖学における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第3回	共通分野(生理学) ・生理学分野についてグループワーク学習					生理学の復習ならびに生理学における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第4回	共通分野(運動学) ・運動学分野についてグループワーク学習					運動学の復習ならびに運動学における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第5回	共通分野(臨床医学1) ・臨床医学分野(骨関節、筋、神経障害)についてグループワーク学習					臨床医学分野(骨関節、筋、神経障害)における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第6回	共通分野(臨床医学2) ・臨床医学分野(精神医学、内部障害、老年期疾患他)についてグループワーク学習					臨床医学分野(精神医学、内部障害、老年期疾患)における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第7回	共通分野(その他1) ・リハビリテーション医学、医学概論などについてグループワーク学習					リハビリテーション医学、医学概論における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第8回	共通分野(その他2) ・病理学、薬理学、臨床心理学、人間発達学などについてグループワーク学習					病理学、薬理学、臨床心理学、人間発達学における理学療法との関連について考えておく。(60分)	
	第9回	専門分野(評価学、基礎) ・基本的な理学療法評価についてグループワーク学習					基本的な理学療法評価をまとめておく。(60分)	
	第10回	専門分野(評価学、応用) ・各疾患に対する理学療法評価についてグループワーク学習					各疾患に対する理学療法評価をまとめておく。(60分)	
	第11回	専門分野(運動療法、基礎) ・基本的な運動療法についてグループワーク学習					基本的な運動療法をまとめておく。(60分)	
	第12回	専門分野(運動療法、応用) ・各疾患に対する運動療法についてグループワーク学習					各疾患に対する運動療法をまとめておく。(60分)	
	第13回	専門分野(物理療法、補装具療法) ・物理療法、補装具療法についてグループワーク学習					物理療法・補装具療法についてまとめておく。(60分)	
	第14回	専門分野(地域リハ、生活環境) ・地域リハ、生活環境整備、ADLに関連する理学療法についてグループワーク学習					地域リハ、生活環境整備、ADLについてまとめておく。(60分)	
第15回	専門分野(その他) ・リスク管理、その他の理学療法についてグループワーク学習					リスク管理、その他の理学療法についてまとめておく。(60分)		
成績評価方法	期末試験100% 期末試験は、3回実施し、その平均点を総合成績とする。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)							ISBNコード
	クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説2024共通問題(メディックメディア)							
	クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説2024専門問題(メディックメディア)							
参考書	国試の達人PTシリーズ2024理学療法編(理学療法科学学会)							
	国試の達人PT・OTシリーズ2024臨床医学編(理学療法科学学会)							
	国試の達人PT・OTシリーズ2024解剖運動生理学編(理学療法科学学会)							
教員からのメッセージ	演習問題の解説を考える際、理解しにくいところなどをグループのメンバーや、その分野を専門とする教員に質問・相談すると、より学習が効果的になる。積極的に議論をすること。							
教員との連絡方法	各教員のオフィスアワーで対応							
実務経験のある教員	担当する全教員は病院・施設における臨床経験があり、それぞれの専門性・経験を活かしてグループワークを促進させていくことで、履修する学生が医療・理学療法に関する応用的知識について、議論を通じて身に付けることを目指す。							

科目コード	R6036	授業科目名	予防理学療法学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美・藤村 昌彦							
授業の概要	疾患や障がいのある人を対象としてきた理学療法に、疾病予防、健康増進など新たな分野での貢献が期待されている。このような健康増進のための理学療法について講義を行う。疾病予防、健康増進について知識を提供し、対象者の健康を支援する視点を養う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ○ ○ ◎
到達目標	対象者の能力や身体状況、生活に応じて適切な指導助言ができる。健康増進のための運動、栄養、休息について説明できる。地域在住の虚弱高齢者に対して、適切な運動指導や体力評価を行うことができる。自分や家族の生活習慣改善を提案できる。							
履修上の注意事項	配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中に提示する用具を破損しないよう丁寧に扱うこと。授業中行う課題は評定に入りますので欠席しないこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	予防理学療法法の概念整理(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による予防概念まとめ60分	
	第2回	生活習慣と疾病予防(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による生活習慣まとめ60分	
	第3回	運動処方と安全管理(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による運動上のリスクまとめ60分	
	第4回	栄養の取り方、代謝(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による栄養まとめ60分	
	第5回	運動処方のための体力評価(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による体力評価まとめ60分	
	第6回	ストレスと休養、睡眠(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による休養の方法まとめ60分	
	第7回	生活習慣病予防(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による生活習慣病まとめ60分	
	第8回	整形外科疾患予防(平岩)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による腰・膝・肩の痛みまとめ60分	
	第9回	なぜ、予防的理学療法が必要なのか?(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による予防理学療法まとめ60分	
	第10回	加齢による虚弱高齢者対策(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による加齢による変化まとめ60分	
	第11回	高齢者の運動評価(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による運動評価まとめ60分	
	第12回	生活不活発病の対策(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による生活不活発病まとめ60分	
	第13回	転倒予防対策(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による転倒予防まとめ60分	
	第14回	脳血管障害の対策と予防(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による脳血管疾患予防まとめ60分	
第15回	腰痛症の対策と予防(藤村)					参考図書該当箇所の精読、事後学習配布資料による腰痛症まとめ60分		
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	配布資料							
参考書	虚弱・高齢者のための健康体操テキスト 奈良勲、藤村昌彦 医歯薬出版						978-4263211496	
	エクササイズ科学—健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践 田中喜代次、田畑泉文光堂						978-4830651779	
	健康長寿をめざす健康管理学 岡田悦政編八千代出版						978-4842915401	
教員からのメッセージ	配布資料についてわからない事は参考書で調べ質問してください。授業の内容を自分の生活習慣と照らし合わせ、健康管理の参考としてください。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp 藤村昌彦:211教員室 masafuji@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美、藤村昌彦:虚弱高齢者、生活期理学療法(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)の診療経験と知見を教育に生かします。							

科目コード	R6037	授業科目名	日常生活活動学					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美							
授業の概要	日常生活活動とは移動・食事・排せつ・更衣などの身辺動作を指します。この授業では世界保健機関の生活機能分類における活動の支援を扱います。疾患の特徴に合わせた動作や環境にはどのようなものがあるかについて講義をします。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	ICFに基づく障害分析、BIやFIMなど主な日常生活活動の評価ができる。理学療法士が臨床で関わる疾患の特徴に合わせた動作や環境整備について支援できる。							
履修上の注意事項	配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中に提示する用具を破損しないよう丁寧に扱うこと。授業中行う課題は評定に入りますので欠席しないこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ADL総論、ADLとQOL					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるADL用語まとめ60分	
	第2回	ICFの概念、QOLの評価					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるQOL評価まとめ60分	
	第3回	ICFによる障害分析					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるICFまとめ60分	
	第4回	ADLの評価(1)BI					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるBIまとめ60分	
	第5回	ADLの評価(2)FIM運動項目					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるFIM運動項目まとめ60分	
	第6回	ADLの評価(3)FIM認知項目					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるFIM認知項目まとめ60分	
	第7回	生活支援機器					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による生活支援機器まとめ60分	
	第8回	杖・歩行補助具					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による杖・歩行補助具まとめ60分	
	第9回	車いす					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による車いすまとめ60分	
	第10回	脳卒中片麻痺のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による脳卒中生活支援まとめ60分	
	第11回	脊髄損傷のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による脊髄生活支援まとめ60分	
	第12回	小児疾患(脳性まひ、筋ジストロフィー)のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による小児生活支援まとめ60分	
	第13回	関節リウマチ・人工関節術後のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるRA・THA生活支援まとめ60分	
	第14回	内部障害・腰痛症のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による内部障害・腰痛症生活支援まとめ60分	
第15回	難病・神経筋疾患のADL支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による難病・神経筋疾患生活支援まとめ60分		
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	標準理学療法学・日常生活活動学・生活環境学第6版(医学書院)					978-4-260-04751-7		
参考書	脳卒中の機能評価SIASとFIM[基礎編](金原出版)					978-4-307-75033-2		
	日常生活活動(ADL)(神陵文庫出版部)							
教員からのメッセージ	ADLとその周辺-評価・指導・介護の実際(医学書院)							
教員からのメッセージ	配布資料についてわからない事は参考書で調べ質問してください。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美:急性期病院の理学療法・生活期理学療法の経験と知見を教育にいかします。							

科目コード	R6038	授業科目名	地域理学療法学(含在宅理学療法)					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	藤村 昌彦							
授業の概要	対象となる方が住み慣れた場所で暮らしていただくための理学療法を修得する。 健康的な生活を構築するための手法を学び、在宅での健康作りの指導方法を習得する。 地域医療の実際として、訪問医療やデイケアの手法を学ぶ。 福祉住環境に配慮した住宅改修について習得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	全ての人があらゆる生活場面で健康を享受することできるように在宅医療の指導・援助ができるようになる。 地域での暮らしを支える理学療法と豊かなところをもつ理学療法士になることを目指す。 福祉住環境整備の知識を得て、実際のアドバイスができるようになる。 訪問リハビリテーションやデイケアで実践的に活躍できることを目指す。							
履修上の注意事項	配布資料について、予備の配布は行いませんので、紛失等した場合は、各自の責任において、他の学生からコピー等で対応してください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	地域医療を重要性を学ぶ					地域医療について調べる(15分)	
	第2回	高齢者や障害者を取り巻く社会状況を学ぶ					高齢者問題について調べる(15分)	
	第3回	在宅医療における高齢者や障害者を取り巻く社会状況					在宅医療について調べる(15分)	
	第4回	疾患別にみた福祉住環境(脳血管障害)					脳血管障害について調べる(15分)	
	第5回	疾患別にみた福祉住環境(廃用症候群等)					廃用症候群について調べる(15分)	
	第6回	疾患別にみた福祉住環境(骨折等)					高齢者の骨折について調べる(15分)	
	第7回	疾患別にみた福祉住環境(関節リウマチ等)					関節リウマチについて調べる(15分)	
	第8回	疾患別にみた福祉住環境(パーキンソン病等)					パーキンソン病について調べる(15分)	
	第9回	疾患別にみた福祉住環境(肢体機能不全・内部障害)					肢体機能不全について調べる(15分)	
	第10回	疾患別にみた福祉住環境(視覚障害)					視覚障害について調べる(15分)	
	第11回	疾患別にみた福祉住環境(聴覚・コミュニケーション障害)					聴覚障害について調べる(15分)	
	第12回	訪問リハビリテーション					訪問リハの実際について調べる(15分)	
	第13回	通所リハビリテーションにおける理学療法					訪問リハの課題について調べる(15分)	
	第14回	地域医療とコミュニケーション					コミュニケーション技法について調べる(15分)	
第15回	住宅改修の基本					住宅改修について調べる(15分)		
成績評価方法	成績評価は期末試験(100%)で判定する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	プリント配布							
参考書								
教員からのメッセージ	授業へ積極的に参加してください。わからないことがあれば、随時遠慮なく聞いてください。知識をたくさん持ち帰り、疑問はその場で解決して持ち帰らないようにしましょう。鉄は熱いうちに打ちましょう。							
教員との連絡方法	211教員室(masafuji@hcu.ac.jp)							
実務経験のある教員								

科目コード	R6039	授業科目名	生活環境学					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美							
授業の概要	生活とは身辺動作に加えて、社会参加や生きがい等を指します。この授業で環境とは世界保健機関の生活機能分類における環境因子を扱います。障がいのある人だけでなく、全ての人が安心して生活を営むために必要な環境の整備にはどのようなものがあるかについて講義をします。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ○ ○ ◎
到達目標	車椅子や歩行補助具、住宅改修等を適切に対象者に紹介できる。車いすや歩行補助具の使用方の説明とメンテナンスができる。介護保険、医療保険、その他の社会保障制度、法と手続きについて説明できる。自宅のバリアフリー化を提案できる。福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指す。							
履修上の注意事項	配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中に提示する用具を破損しないよう丁寧に扱うこと。授業中行う課題は評定に入りますので欠席しないこと。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	ICFにおける環境因子					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるICFまとめ60分	
	第2回	ノーマライゼーションとIL運動					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるノーマライゼーションまとめ60分	
	第3回	住環境整備					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による住環境整備まとめ60分	
	第4回	住宅改修と福祉用具の給付に関わる法制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による給付制度まとめ60分	
	第5回	コミュニケーションと情報に関わる支援機器、法制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるコミュニケーション機器まとめ60分	
	第6回	交通環境、外出のためのバリアフリー					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による交通環境バリアフリーまとめ60分	
	第7回	地域社会とまちづくり					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるまちづくりまとめ60分	
	第8回	災害と支援					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による災害時支援まとめ60分	
	第9回	社会保障制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による社会保障まとめ60分	
	第10回	医療保険制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による医療保険まとめ60分	
	第11回	子どもの環境・児童福祉・障がい児福祉					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による子ども福祉まとめ60分	
	第12回	障がい者のための法・制度と手続き					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による障がい者福祉まとめ60分	
	第13回	雇用・労働を取り巻く制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による雇用・労働制度まとめ60分	
	第14回	年金と高齢者福祉制度					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による高齢者福祉まとめ60分	
第15回	経済的困窮に対する福祉					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による経済困窮者福祉まとめ60分		
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。 ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)						ISBNコード	
	標準理学療法学・日常生活活動学・生活環境学第6版(医学書院)						978-4-260-04751-7	
参考書								
教員からのメッセージ	新聞やニュース、普段の生活やまちの中でバリアフリーについて興味を持ち、社会の動きに目を向けるようにしましょう。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美:在宅分野の理学療法診療経験、地域の健康教育・福祉住環境コーディネーター・介護支援専門員の経験と知見をいかします。							

科目コード	R6040	授業科目名	日常生活活動演習					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	平岩 和美・谷岡 龍一・猪村 剛史							
授業の概要	理学療法士が臨床で関わる疾患の特徴に合わせた日常生活活動(動作)や環境にはどのようなものがあるかについて演習により理解を深め技術の充実を図ります。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	理学療法士が臨床で関わる疾患の特徴に合わせた動作や環境整備について支援できる。							
履修上の注意事項	学校指定の実習着、ジャージを着用のこと。配布資料に授業内容を書き込んでください。私語、携帯電話の使用を禁止します。授業中に提示する用具を破損しないよう丁寧に扱うこと。授業中行う課題は評定に入りますので欠席しないこと。包帯や三角巾等の準備物がある場合は各自用意すること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	基本動作の介助、ボディメカニクス(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による基本動作介助練習60分	
	第2回	ADLと運動学(1)分析のポイント、スティックピクチャによる姿勢観察、支持基底面と重心(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による姿勢観察練習60分	
	第3回	ADLと運動学(2)スティックピクチャによる動作分析(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による動作分析60分	
	第4回	事例によるADLの評価(BI,FIM)(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるBI,FIMまとめ60分	
	第5回	下肢切断のADL、動作の理解と断端包帯(平岩)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による断端包帯練習60分	
	第6回	片麻痺のADL(1)(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による片麻痺まとめ60分	
	第7回	片麻痺のADL(2)(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による片麻痺まとめ60分	
	第8回	人工関節のADL(1)(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による人工関節まとめ60分	
	第9回	人工関節のADL(2)(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による人工関節まとめ60分	
	第10回	パーキンソン病のADL(谷岡)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料によるパーキンソン病まとめ60分	
	第11回	脊髄損傷のADL(猪村)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による脊髄損傷まとめ60分	
	第12回	腰痛症のADL(猪村)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による腰痛症まとめ60分	
	第13回	関節リウマチのADL(猪村)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による関節リウマチまとめ60分	
	第14回	車いす・歩行関連用具(猪村)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による車いす歩行関連用具まとめ60分	
第15回	自助具(猪村)					事前学習教科書該当箇所の精読、事後学習配布資料による自助具まとめ60分		
成績評価方法	期末試験。試験が困難な場合は提出課題を総合的に評価。 ただし、3回以上の欠席(課題未提出)は評価の対象としない。2回の遅刻(課題提出の遅れ)は1回の欠席とみなす。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	標準理学療法学・日常生活活動学・生活環境学第6版(医学書院)					978-4-260-04751-7		
参考書	脳卒中中の機能評価SIASとFIM[基礎編](金原出版)					978-4-307-75033-2		
	日常生活活動(ADL)(神陵文庫出版部)							
教員からのメッセージ	ADLとその周辺-評価・指導・介護の実際(医学書院)							
	配布資料についてわからない事は参考書で調べ質問してください。							
教員との連絡方法	平岩和美:309教員室 hiraiwa@hcu.ac.jp 谷岡龍一:202教員室 tanioka@hcu.ac.jp 猪村剛史:203教員室 imura@hcu.ac.jp							
実務経験のある教員	平岩和美:老人保健施設の理学療法、介護予防、在宅介護支援 谷岡龍一:回復期(脳卒中、整形外科、呼吸器科等)、生活期(廃用症候群等)、訪問リハビリ(特定疾患、慢性疾患等) 猪村剛史:急性期(脳卒中、整形外科、呼吸器科等)の診療経験と知見を教育にいかします。							

科目コード	R6041	授業科目名	動物介在療法					
履修区分	選択	開講期	2年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	川嶋 舟・高橋 憲子							
授業の概要	動物介在療法の関わる分野を紹介し、動物介在療法の適応とその効果について関連する領域とともに学ぶ。動物介在療法の特徴を人間および動物の側面から理解し、実際のプログラムを作成し実施する際に必要となる知識を養う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ — △
到達目標	動物介在療法の適応可能な障がいや疾病を理解したうえで、適切なプログラムを作成し、実践を行なう際に主体的に関われるようになることを目指す。							
履修上の注意事項	授業内での質疑応答には積極的に発言し参加してください。 私語、携帯電話・携帯端末の使用、LINE等の使用を控えてください。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	動物介在療法について(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第2回	動物介在療法の位置づけ(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第3回	動物介在療法の適応(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第4回	動物介在療法で用いる動物について(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第5回	動物介在療法の実際(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第6回	動物介在療法とリハビリテーション(川嶋)					講義の復習またはレポート課題	
	第7回	感覚統合理論を基盤にした動物介在療法(未定)					講義の復習またはレポート課題	
	第8回	感覚統合理論を基盤にした動物介在療法の実際(未定)					講義の復習またはレポート課題	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	担当教員ごとにレポートで評価いたします。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書	ホースセラピー 癒しの乗馬 「財界」編集部(財界研究所)					978-4-87932-114-5		
	手綱、繋がる思い ダイヤモンド・ビジネス企画(ダイヤモンド社)					978-4-478-08365-9		
教員からのメッセージ	授業内容で触れた事柄について各自で調べるとともに、授業で配布される資料および関連書籍等を熟読してください。 テキストは授業内で紹介します。							
教員との連絡方法	教務課を通してアポイントメントをとってください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R6043	授業科目名	園芸療法					
履修区分	選択	開講期	2年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	高松 雅子							
授業の概要	近年、注目されている園芸療法・園芸福祉について、その概念の理解と実習を通してリハビリテーションへの具体的適用について学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針) = 卒業までに身に付けるべき資質・能力							— ○ ○ ◎
到達目標	社会的意義と医学的効果について論理的に修得し、実施プログラムを策定する。							
履修上の注意事項	初級園芸福祉士の受験資格を得られる。受験料は6000円。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	第1章 いま、なぜ園芸療法、園芸福祉なのか？ 植物の導入 第2章 活動を地域の中に普及する					園芸療法で得られる効果を考えてみる(60分)	
	第2回	第4章 植物の効果と療法ガーデンでの園芸作業					植物はどんな効果をもたらすか考えてみよう(60分)	
	第3回	討議:園芸療法ガーデンの視点 グループ討議					園芸療法ガーデンのデザインをイメージしてみる(60分)	
	第4回	実習:モデルガーデン作り					花壇の植栽方法を調べておく(60分)	
	第5回	第3章 園芸療法コミュニティと市民農園 実習:園芸療法 ガーデンモデル 討議とプラン作り					家の周りの市民農園を探してみよう(60分)	
	第6回	第5章 園芸療法プログラム実践方法					園芸でどんな療法的プログラムを計画できるか考えておく(60分)	
	第7回	討議:園芸療法プログラムの進め方 グループ討議 実習:プログラムの実践(視覚障害の人楽しむ押し木)					障害を持った方との園芸の進め方を考える(60分)	
	第8回	園芸福祉士試験に関して/試験					授業の振り返り、重点をまとめておく。	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
	第15回							
成績評価方法	期末試験 50%、授業内ワークシート 30%、授業関与度 20% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	園芸福祉入門・日本園芸福祉普及協会(創森社)					978-4-88340-208-3		
参考書								
教員からのメッセージ	時間を守ること。携帯によるメール私語等の禁止。 テキストで予習して講義に臨むこと。随時、参考文献や資料の紹介をします。ノートや資料のファイリングをすること。							
教員との連絡方法								
実務経験のある教員	高齢者施設・障がい者施設での園芸療法実務経験を活かし、プログラムに応じた講義及び実習を行う。							

科目コード	R6045	授業科目名	臨床見学実習					
履修区分	必修	開講期	2年	前期	実習期間	5日間	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一 ・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	病院・施設における体験学習を通して理学療法の内容・役割・流れについて学ぶ。 実習先の対象者の障害を学ぶ。 専門職として信頼関係を構築するための基本的態度や行動を学ぶ。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	適切な接遇やコミュニケーション技法を理解する。 対象者の障害を理解する。 体験学習を通して理学療法士の役割を理解する。							
実習先行要件	なし							
履修上の注意事項	服装・挨拶・言葉遣いをはじめ、時間を守るなどの実習上のルールを遵守すること。 なお実習開始前オリエンテーションを実施する。日程は追って連絡する。							
実習スケジュール	5日間(1週間)にわたり病院・施設で理学療法評価実習を行う。 事前・事後学習時間は延べ5時間であり、実習指導者が実習の進行状況に合わせて学習内容を指示する。							
成績評価方法	臨床実習要項の評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	・実習指導者への報告・連絡・相談を適宜行ってください。 ・体調不良時は、自己判断せず、実習指導者と実習施設担当教員に対応をご相談ください。 ・実習中困ったことがございましたら、早めに実習施設担当またはチューター等にご連絡ください。							
教員との連絡方法	お問い合わせは、臨床見学実習担当教員(谷岡 tanioka@hcu.ac.jp、中川 nakagawa@hcu.ac.jp)までご連絡ください。 なお、実習施設ごとに担当教員が配置されております。 各自が実習する施設を担当する教員を確認し、担当教員との実習中の連絡方法について事前に打ち合わせてください。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目です。							

科目コード	R6046	授業科目名	臨床地域実習					
履修区分	必修	開講期	2年	後期	実習期間	5日間	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	地域リハビリテーションを実践する施設における理学療法士の役割を学ぶ。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等での他職種協業について理解を深め、対象者の生活を支援する視点を身につける。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	臨床見学実習の行動目標に加え、以下の行動目標を設定する。 ①対象者とご家族に適切に対応できる。 ②臨床地域実習における自己成長のための具体的な目標を立てることができる。 ③介護保険制度について理解し、サービス利用までの流れを説明できる。 ④他職種の役割や、実習施設の地域における役割を説明できる。 ⑤ケアマネジメントについて説明できる。 ⑥在宅サービスの種類とその意義や目的を説明できる。 ⑦日常生活活動(動作)・参加の目標設定が適切にできる。 ⑧住宅改修案や福祉用具のコーディネートを理解できる。							
実習先要件	なし							
履修上の注意事項	服装・挨拶・言葉遣いをはじめ、時間を守るなどの実習上のルールを遵守すること。 なお実習開始前オリエンテーションを実施する。日程は追って連絡する。							
実習スケジュール	5日間(1週間)にわたり病院・施設の通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーション部門にて実習を行う。事前・事後学習時間は延べ5時間であり、実習指導者が実習の進行状況に合わせて学習内容を指示する。							
成績評価方法	臨床実習要項の評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	・実習指導者への報告・連絡・相談を適宜行ってください。 ・体調不良時は、自己判断せず、実習指導者と実習施設担当教員に対応をご相談ください。 ・実習中困ったことがございましたら、早めに実習施設担当またはチューター等にご連絡ください。							
教員との連絡方法	お問い合わせは、臨床地域実習担当教員(平岩hiraiwa@hcu.ac.jp、猪村imura@hcu.ac.jp)までご連絡ください。 なお、実習施設ごとに担当教員が配置されております。 各自が実習する施設を担当する教員を確認し、担当教員との実習中の連絡方法について事前に打ち合わせてください。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目です。							

科目コード	R6047	授業科目名	臨床実習学内演習					
履修区分	必修	開講期	3年	前期	授業回数	23回	単位数	1単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	臨床評価実習に向けたOSCE(Objective Structured Clinical Examination、客観的臨床能力試験)を通して実践的な内容を学習する。また、臨床評価実習の履修に必要な基礎知識の確認を行う。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける							△
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける							◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける							○
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法評価の全体像を理解し把握する。 理学療法評価に必要な情報収集ができる。 模擬症例を対象とし臨床推論により問題点の抽出ができる。 							
履修上の注意事項	OSCEで達成できなかった事項については再度学習し直し、臨床評価実習が始まるまでに解決すること。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	講義:問診による障害像の把握(甲田)					理学療法評価で必要となる問診の項目について復習しておく(60分)。	
	第2回	演習:問診による障害像の把握①(甲田 他)					理学療法評価で必要となる問診の項目について練習しておく(60分)。	
	第3回	演習:問診による障害像の把握②(甲田 他)					理学療法評価で必要となる問診の項目について練習しておく(60分)。	
	第4回	OSCE:問診による障害像の把握(甲田 他)					理学療法評価で必要となる問診の項目について練習しておく(60分)。	
	第5回	講義:運動器疾患を主体とする症例の評価(上川)					運動器疾患に対する評価項目と評価方法について復習しておく(60分)。	
	第6回	演習:運動器疾患を主体とする症例の評価①(上川 他)					運動器疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第7回	演習:運動器疾患を主体とする症例の評価②(上川 他)					運動器疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第8回	OSCE:運動器疾患を主体とする症例の評価(上川 他)					運動器疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第9回	講義:神経疾患を主体とする症例の評価(猪村)					神経疾患に対する評価項目と評価方法について復習しておく(60分)。	
	第10回	演習:神経疾患を主体とする症例の評価①(猪村 他)					神経疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第11回	演習:神経疾患を主体とする症例の評価②(猪村 他)					神経疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第12回	OSCE:神経疾患を主体とする症例の評価(猪村 他)					神経疾患に対する評価項目と評価方法について練習しておく(60分)。	
	第13回	デイリーノート等の書き方、症例レポートの作成演習①(平岩)					症例レポートで記載が求められる内容を復習しておく(60分)。	
	第14回	症例レポートの作成演習②(平岩 他)					症例レポートで記載が求められる内容を復習しておく(60分)。	
第15回	基礎知識の総復習(石倉)					理学療法評価で求められる基本的知識を復習しておく(60分)。		
成績評価方法	OSCEと基礎知識確認テストをそれぞれ合格した者に対し、OSCEを60%、基礎知識確認テストを40%の割合で評点する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
参考書								
教員からのメッセージ	臨床評価実習に向けて取り組む課題が示される内容となっているので、1年次・2年次の復習を十分に行っておくこと。							
教員との連絡方法	各教員の指定したオフィスアワーで対応する。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員による実践的教育から構成される科目です。							

科目コード	R6048	授業科目名	臨床評価実習					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	実習期間	15日間	単位数	3単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一 ・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床場面において、臨床実習指導者の下で、症例に応じた検査・測定を実施する。 ・信頼性のある検査・測定結果に基づいて臨床的推論を行い問題点をとらえる評価のプロセスを実践する。 ・評価結果から治療・介入にいたる理学療法士の思考過程を体験する。 							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							△ ◎ ○ ○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集(面接・観察・他部門からの情報・社会的背景)ができる。 ・適切なリスク管理・検査・測定が実習指導者の監視下のもと実施できる。 ・臨床推論により問題点の抽出ができる。 ・適切な記録や報告ができる。 							
実習先行要件	本実習は、3年前期終了までに開講した専門基礎分野および専門分野における必修科目の単位を全て修得していることが履修要件である。							
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習手引きを熟読し、施設への提出物や実習後の大学への提出物等の確認を行うこと。 ・実習施設担当教員および実習指導者に事前に準備すべき事項を確認し、これまで学習してきた理学療法の知識や技術について十分な復習を行い実習に臨むこと。 ・実習の2週間前より体調を管理し、健康観察表に記載すること。 							
実習スケジュール	15日間(3週間)にわたり病院・施設で理学療法評価実習を行う。 事前・事後学習時間は延べ15時間であり、実習指導者が実習の進行状況に合わせて学習内容を指示する。							
成績評価方法	臨床実習要項の評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者への報告・連絡・相談を適宜行ってください。 ・体調不良時は、自己判断せず、実習指導者と実習施設担当教員に対応をご相談ください。 ・実習中困ったことがございましたら、早めに実習施設担当またはチューター等にご連絡ください。 							
教員との連絡方法	お問い合わせは、臨床評価実習担当教員(馬屋原 uma@hcu.ac.jp, 田邊 tanabe@hcu.ac.jp)までご連絡ください。 なお、実習施設ごとに担当教員が配置されています。 各自が実習する施設を担当する教員を確認し、担当教員との実習中の連絡方法について事前に打ち合わせてください。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目です。							

科目コード	R6049	授業科目名	臨床総合実習 I					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	実習期間	40日間	単位数	8単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一 ・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	臨床総合実習は理学療法評価から治療までの実際を学ぶ。 臨床実習指導者の下、評価・治療を実施し、基本的な理学療法を習得する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ ○
到達目標	・情報収集・観察・検査・測定、統合と解釈、問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案ができるようになる。 ・基本的な理学療法が実施できるようになる。							
実習先行要件	以下の要件をすべて満たす者 ・3年次前期終了までに開講した専門基礎分野及び専門分野の必修科目の単位をすべて修得した者。 ・「臨床見学実習」「臨床評価実習」の単位を修得した者。							
履修上の注意事項	・実習施設担当教員および実習指導者に事前に準備すべき事項を確認し、これまで学習してきた理学療法の知識や技術について十分な復習を行って実習に臨むこと。 ・実習の2週間前より体調を管理し、健康観察表に記載すること。 ・実習手引きを熟読し、施設への提出物や実習後の大学への提出物等の確認を行うこと。							
実習スケジュール	・40日間(8週間)にわたり病院・施設で理学療法実習を行う。 ・事前・事後学習時間は延べ40時間であり、実習指導者が実習の進行状況に合わせて学習内容を指示する。							
成績評価方法	臨床実習要項の評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	・実習指導者への報告・連絡・相談を適宜行ってください。 ・体調不良時は、自己判断せず、実習指導者と実習施設担当教員に対応をご相談ください。 ・実習中困ったことがあれば、早めに実習施設担当教員またはチューター等にご連絡ください。							
教員との連絡方法	・お問い合わせは、臨床総合実習担当教員(江越 egoshi@hcu.ac.jp, 田邊 tanabe@hcu.ac.jp, 中川 nakagawa@hcu.ac.jp)までご連絡ください。 ・実習施設ごとに担当教員が配置されています。各自が実習する施設を担当する教員を確認し、担当教員との実習中の連絡方法について事前に打ち合わせてください。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							

科目コード	R6050	授業科目名	臨床総合実習Ⅱ					
履修区分	必修	開講期	4年	前期	実習期間	7週間	単位数	7単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一 ・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	臨床総合実習Ⅰでの学習を踏襲し、臨床実習指導者の下、評価・治療を実施し、基本的な理学療法を習得する。 ※本科目は、実務経験のある教員及び実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ◎ ○ ○
到達目標	・理学療法の評価・治療の実際を理解できるようになる。 ・検査測定結果から臨牀的推論を行い、問題点を抽出し、目標を設定できるようになる。 ・実習指導者の指導下で基本的な理学療法が実施できるようになる。							
実習先行要件	以下の要件をすべて満たす者 ・3年次終了までに開講される専門基礎科目・専門科目の必修科目を単位修得済みのこと。 ・「臨床見学実習」「臨床評価実習」「臨床総合実習Ⅰ」の単位を修得済みのこと。							
履修上の注意事項	・実習施設担当教員および実習指導者に事前に準備すべき事項を確認し、これまで学習してきた理学療法の知識や技術について十分な復習を行って実習に臨むこと。 ・実習の2週間前より体調を管理し、健康観察表に記載すること。 ・実習手引きを熟読し、施設への提出物や実習後の大学への提出物等の確認を行うこと。							
実習スケジュール	・35日間(7週間)にわたり病院・施設で理学療法実習を行う。 ・事前・事後学習時間は延べ35時間であり、実習指導者が実習の進行状況に合わせて学習内容を指示する。							
成績評価方法	臨床実習要項の評価表(ルーブリック評価)に基づき評価する。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	・実習指導者への報告・連絡・相談を適宜行ってください。 ・体調不良時は、自己判断せず、実習指導者と実習施設担当教員に対応をご相談ください。 ・実習中困ったことがあれば、早めに実習施設担当教員またはチューター等にご連絡ください。							
教員との連絡方法	・お問い合わせは、臨床総合実習担当教員(江越 egoshi@hcu.ac.jp, 田邊 tanabe@hcu.ac.jp, 中川 nakagawa@hcu.ac.jp)までご連絡ください。 ・実習施設ごとに担当教員が配置されています。各自が実習する施設を担当する教員を確認し、担当教員との実習中の連絡方法について事前に打ち合わせてください。							
実務経験のある教員	本科目は、実務経験のある教員および実習施設指導者を中心とした実践的教育から構成される科目である。							

科目コード	R6051	授業科目名	理学療法学研究法					
履修区分	必修	開講期	3年	後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	加藤 みわ子							
授業の概要	科学としての理学療法学における研究の意義を講義し、科学研究の種類、具体的な研究の手順について享受する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							○ ○ ○ ◎
到達目標	統計学の基本的用語(データの尺度、平均値、標準偏差、正規分布、推定と検定など)を説明できる。 ヘルシンキ宣言の要点を説明できる。 卒業研究の研究課題を設定することができる。							
履修上の注意事項	必ず講義を聴くこと。私語や他ごとに興じている者、寝ている者は欠席扱いとする。 ○ 授業スケジュール終了後、研究課題調査書を提出する。							
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修	
	第1回	クリニカル・クエスチョンとリサーチ・クエスチョン					科学的な取り組みについて、ノートもまとめながら復習する(60分)	
	第2回	研究デザイン					授業を参考にして、自分の研究を想定して計画を立てる(30分)	
	第3回	データの分類					今までに履修した「統計学」を復習しておく(60分)	
	第4回	卒業研究発表会の聴講					発表毎に感想や意見、質問などをまとめる(90分)	
	第5回	記述統計					記述統計と推測統計の違いについて復習をする(60分)	
	第6回	推定統計の基礎(1)					t検定の考え方についてまとめて復習する(60分)	
	第7回	推定統計の基礎(2)、信頼性と妥当性					統計解析の記述に仕方や使用方法について復習し、習得する(60分)	
	第8回	研究倫理					ヘルシンキ条約を一読して、倫理について考察する(60分)	
	第9回							
	第10回							
	第11回							
	第12回							
	第13回							
	第14回							
第15回								
成績評価方法	卒業研究発表会レポート40%、研究課題調査書60% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード		
	使用しない							
参考書								
教員からのメッセージ	ゆっくり丁寧に説明するので、集中して聴講すること。 研究課題調査書の提出期限は厳守すること。							
教員との連絡方法	まず、メールで連絡してください。その後、オフィスパワーを利用して、506研究室へ来てください。							
実務経験のある教員								

科目コード	R6052	授業科目名	理学療法学研究法演習							
履修区分	必修	開講期	4年	前期	授業回数	8回	単位数	1単位		
担当者	加藤 みわ子・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・甲田 宗嗣・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一・田邊 淳平・中川 敬汰									
授業の概要	研究計画書や研究倫理に関する書類の作成、文献収集、研究機器の使用体験を通じて、卒業研究を行い、卒業研究論文を執筆するためのスキルを身につける。									
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身につけるべき資質・能力						△	◎	○	△
到達目標	研究計画書を作成できる。必要に応じて研究倫理に関する書類を作成できる。 研究課題に関連した文献を収集できる。 研究課題に適した研究機器、研究方法を選定できる。									
履修上の注意事項	開講日時および教室を事前に確認すること。									
授業計画	回数	講義内容					事前・事後学修			
	第1回	研究計画書・研究倫理に関する書類の作成(甲田)					研究倫理について、論文の書式や提出方法などについて確認、復習をする(60分)			
	第2回	文献検索の基礎と実践(加藤)					文献の読み方を復習し、自ら文献を検索できるように復習する(60分)			
	第3回	動作解析装置の使用(伊藤) / 重心動揺計の使用(平岩)					動作解析層、重心動揺計について復習する(60分)			
	第4回	体圧分散計測装置の使用(上川) / 循環動態計測装置の使用(江越)					体圧分散計測、循環動態計測について復習する(60分)			
	第5回	呼吸機能計測装置の使用(馬屋原) / 超音波検査装置の使用(石倉)					呼吸機能計測、超音波検査について復習する(60分)			
	第6回	表面筋電図計測装置の使用(藤村) / 徒手筋力検査装置の使用(中川)					表面筋電図計測、徒手筋力検査について復習する(60分)			
	第7回	統計処理法(谷岡)					今まで学んだ「統計学」について、予習しておく(60分)			
	第8回	理学療法士と基礎研究(猪村) / 調査研究の方法論(田邊)					講義の内容をまとめて、自らの研究の方法論について考える(60分)			
	第9回									
	第10回									
	第11回									
	第12回									
	第13回									
	第14回									
第15回										
成績評価方法	研究計画書70%、収集した文献の内容30% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。									
教科書	書名・著者(出版社)					ISBNコード				
	使用しない。									
参考書										
教員からのメッセージ	各指導教員から指示がある。 期日(別途設定)までに研究計画書を卒業研究指導教員に提出すること。									
教員との連絡方法	卒業研究指導教員の研究室にお越しください。									
実務経験のある教員	病院等に於いて臨床経験のある教員が、実臨床に沿って講義を行う。									

科目コード	R6053	授業科目名	卒業研究					
履修区分	必修	開講期	4年	後期	授業回数	30回	単位数	2単位
担当者	甲田 宗嗣・藤村 昌彦・伊藤 祥史・平岩 和美・加藤 みわ子・馬屋原 康高・上川 紀道・石倉 英樹・猪村 剛史・江越 正次朗・谷岡 龍一 ・田邊 淳平・中川 敬汰							
授業の概要	3年次までに学修した知識に基づき、専門領域あるいは保健医療福祉に関する領域に係るテーマの中から、学生各々の関心や疑問課題に基づいたテーマを設定して研究を行う。 研究は、研究計画に従い実行してその結果をまとめ、卒業論文を作成し、併せて発表報告を行い、論文を提出するまでの一連の過程を実践・経験する。							
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける ②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける ③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける ④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける ※DP:ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)=卒業までに身に付けるべき資質・能力							◎ ○ ○ ◎
到達目標	研究テーマを確定し、その意味付けのための文献収集を行い、研究を進めるための、理論的背景の下に詳細な研究計画を立案できること、その研究計画に基づいて研究を遂行し、結果と考察を論文としてまとめ報告できることを目標とする。							
履修上の注意事項	指導教員と密に連絡をとって指導を仰ぐこと。提出物は時間厳守で実行すること。個々の学生は、お互いに協力して研究を遂行していくこと。							
成績評価方法	文献収集から、研究計画に沿って研究活動を遂行し、論文を作成し提出するまでの一連のプロセスを評価する。 ポイント ・適切に研究活動が実施できたか 20% ・論文としてまとめて期限を守って提出できたか 50% ・論文発表のための抄録を作成し期限を守って提出できたか 10% ・発表のための資料を作成し期限を守って提出できたか 5% ・発表ができたか 15% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。							
教員からのメッセージ	各指導教員から指示がある。							
教員との連絡方法	指導教員ゼミの際に確認しておくこと。							
実務経験のある教員								